

平成29年度能登町教育委員会指定・海洋教育推進事業

里海科研究発表会 学習指導案集

研究主題

海に親しみ ふるさとにほこりと愛着を持つ児童の育成
～海に関する体験活動を通して～

平成29年10月 6日(金)

能登町立小木小学校

目次

公開授業

学年	教科	単元名	指導者	場所
1年	生活科	きせつともだち ～みなさんこんにちは～	中山志津子	1F 1年教室
2年	生活科	生きものといっしょに ～つくもっこ水族館をつくろう～	木村 優風	2F 2年教室
3年	総合的な学習の時間	わたしたちの海をまもろう ～海を守るお掃除大作戦～	中山志津子	2F 3年教室
4年	総合的な学習の時間	小木発信プロジェクト ～イカす小木 イカすCMでPR!～	梅木あゆみ	2F 4年教室
5年	里海科	わたしたちの食生活と食料生産 水産業のさかんな地域 ～能登町の水産業を見つめて～	加賀 浩	3F 5年教室
6年	里海科	漁師の仕事を知ろう ～能登町の漁師として生きる～	梶 麻希	3F 6年教室

第1学年生活科学学習指導案

場所 1年教室

指導者 中山 志津子

1 単元名 きせつとともにだち ～みなさんこんにちは～

2 単元の目標

- ・進んで自然と触れ合い、自然の変化や不思議さを感じ取り、諸感覚を用いた遊びや生活を楽しもうとする。 【生活への関心・意欲・態度】
- ・四季の変化について自分なりに考えたり、身近な自然物を利用した遊びを工夫したりして、それら表現することができるようにする。 【活動や体験についての思考・表現】
- ・自然と触れ合い、楽しく遊びながら、季節の変化や遊びの楽しさ、自然の不思議さに気付くことができるようにする。 【身近な環境や自分についての気付き】

3 指導にあたって

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領の内容(5)季節の変化と生活、(6)自然や物を使った遊びに基づいて設定したものである。本校には、校舎裏に「九十九っ子の森」があり、校区には、ふれあい海洋センターの「屋外タッチフィールド」があり、児童にとって身近に恵まれた自然環境が整っている。本単元はこれらの校庭や施設へ年間を通して出かけ、自然と触れ合う直接的な体験を繰り返し行う。自然を体全体で感じながら、繰り返し自然と触れ合うことで、季節によって自分たちの遊びや生活の様子が変わること気付くことができる。また、身近にある自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして遊びを作り出すことを通して、遊びの面白さや自然の不思議さに気付くことをねらいとしている。

(2) 児童観

本学級の児童は、活動的で好奇心が旺盛な児童が多く、休み時間は校庭や、校舎裏の九十九っ子の森で遊ぶことを楽しんでいる。遊びの中で見つけた草花を教室に持って来たり、校庭で捕まえた昆虫を見せ合ったりしている。身近な自然に対する知識が豊富な児童もおり、見つけた昆虫について知っていることを話している場面もよくみかける。これまでに、身近な自然に関わる活動としては、春には校庭の周りで、草花や虫を見つれたり、草花を使った遊びを体験したりした。夏には、春と同じ場所に行き季節による違いを比べた。また、屋外タッチフィールドで磯遊びしたり、海草を採取したりして、海辺の身近な自然にも関わってきた。

生活科の時間に身近な自然と関わる活動を行ってから、以前より身近な自然を意識するようになり、通路や家で見つけたことを、発見カードに積極的に書く姿が見られた。自然と繰り返し関わる中で、感じたことを交流する場では、四月に比べ、気付いたことを話せるようになってきた。しかし、身近な自然と遊んだりしているが、身近にあるものを使って遊びに使う物を作ったりする経験は少ない。また、楽しかったことや対象とのかかわりで得た気付きを表現することはできているが、それを交流し気付きを関連付け、新たな気付きを生み出したり、次の活動や体験につなげたりすることは、まだ不十分である。

(3) 指導観

本単元では、学校の周りの身近な自然に触れ合う活動、春と夏を利用して遊ぶ活動において繰り返し対象と関わることを大切にする。その活動から生まれる児童の気づきを大切にし、活動を振り返り、感じたことなどを交流する。交流を通して四季の変化や季節によって生活の様子が変わることの気づき、自分たちの生活を工夫したり、楽しくしたりできるようにしていく。

第一次では、学校の周りの里山である九十九っ子の森や校庭で春探しをする。「五感」を使って活動し、春を体全体で十分に感じ取ることができるようにする。児童の見つけてきたものや発言については、共感的に受容し、多様な気づきを引き出したい。また、友達と自然物を使って遊ぶことで、春の自然物の特徴を生かした遊びの楽しさや関心を持たせる。

第二次では、夏の里山と里海の様子を諸感覚で感じながら自然と触れ合い、春との季節の変化の違いを感じ取ることができるようにする。そのために、春の活動時の写真を提示し、様子を見比べて思い出しながら自然と触れ合うことを伝える。活動後には、諸感覚で感じたことやその場所で見つけた物の絵を発見カードにかく。発見カードをかくときの手立てとして、磯遊びのときの写真を大型テレビに提示し、活動を想起しやすいようにする。そして、「校庭と海の様子マップ」を作る。諸感覚で感じたことや様子をマップで可視化して見比べることにより、春との違いに気付けるようにする。

第三次では、土や水で遊ぶ活動場所を「五色ヶ浜の砂浜」にし、「夏の海での遊び」に親しむことができるようにする。砂浜で友達と一緒に遊ぶ中で、砂や海水の特徴や固めるためにはどうすればいいかななどの考えを出し合い、気づきの質を高めていく。また、友だちと関わる中で、友だちのよさや自分との違いに気付いたり、相手の考えを尊重したりする態度を育てるようにする。

第四次では、第二次と同じように、「あきのはじまりうみまっぷ」を作り、「なつのうみのまっぷ」の様子と比べる。

これは、次単元の「きせつともだち いろやかたちをたくさんみつけた」の学習にもつながっていく。1年を通して同じ場所で自然物と繰り返し関わり、季節ごとのマップを見比べることで、季節や自然物の変化に気付くことができるようにする。

このような活動から、本校の目指す児童像である「海の自然に親しみ、進んで関わろうとすること」につながる素地ができると考える。

4 単元の指導・評価計画（総時数14時間）

次	時	小単元または指導目標	主な学習活動	評価規準【評価の観点】 (評価方法)
一	1	自分の行きたい場所やしたいことを話したり、友だちの話を聞いたりして、話し合い活動に参加しようとする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">はるってどんなのかな。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の四季のイラストから、気付いたことを出し合い、これからの学習に見通しをもつ。 ・教科書の春の写真から、気付いたことを話し、行ってみたいこと、やってみたいことを出す。 ・散歩の約束を確認する。 <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-top: 10px;">春探しに、外に行ってみたい。散歩に行くことが楽しみだな。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の行きたい場所やしたいことを話したり、友だちの話を聞いたりして、話し合い活動に参加しようとしている。 <p>【関・意・態】 (行動観察)</p>

	2	身近な自然の中で出会う春について、意欲的に観察し、見付けようとする。	<p>さんぽにいこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 校庭や九十九子の森を散歩し、春探しをする。 見つけたことや気付いたことを伝える。 <p>チューリップが咲いていたよ。鳥の声が聞こえたよ。花に虫が集まっていたよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 散歩で発見したことや気付いたことについて、友だちや教師に伝えている。 <p>【思考・表現】 (友だちや教師との対話)</p>
	3	春の自然について、友だちとともに、約束を守って遊びを諸感覚で感じながら楽しもうとする。	<p>はるをからだじゅうでかんじよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊ぶときの約束を確認する。 校庭に行き、友だちと春の自然物を使って遊ぶ。 <p>花の匂いをかいだら、あまい匂いがしたよ。四つ葉のクローバーがあったよ。シロツメクサでかんむりをつくったよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 身近な春の自然について約束を守って友だちと遊んだり、諸感覚を使って感じたりしようとしている。 <p>【関・意・態】 (行動観察)</p>
	4	自分たちが感じたり、遊んだりしたことから、春の特徴に気付くことができるようにする。	<p>はるは、どんなようすだったかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 春のビンゴカードをし、春の散歩や遊びを振り返る。 見つけたことや不思議に思ったことを出し、気付いたことを話し合う。 <p>花に虫がいたのは、花の蜜を吸っていたからなんだね。春は花がいっぱいあるとわかったよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちが感じたり、遊んだりしたことから、春の特徴について気付いている。 <p>【気付き】 (発表、ビンゴカード)</p>
二	1	里山の夏の様子を諸感覚で感じながら、自然と触れ合おうとする。	<p>なつさがしにいこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 春と同じ校庭や九十九子の森に行き、春に来たときとの違いや変化を探したり、夏の特徴を探したりする。 <p>あじさいがあったよ。バッタをつかまえたよ。桜の木は、春は花が咲いていたのに、今は緑の葉っぱになっているね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 里山の夏の様子を諸感覚で感じながら、自然と触れ合おうとしている。 <p>【関・意・態】 (行動観察)</p>
	2	散歩や遊びを通して、春と夏の違いや変化に気付くことができるようにする。	<p>なつのやまは、どんなようすだったかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 見つけたものや気付いたことを発見カードに書く。 春と夏の様子を比べ、山の自然の様子が変わってきていることについて話し合う。 <p>春みたときにあった花がなかったよ。夏は、春より緑がいっぱいあるね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 春と夏の違うところ、同じところに気付いている。 <p>【思考・表現】 (発見カード)</p>

	3	里海の夏の様子を諸感覚で感じながら、自然と触れ合おうとする。	<p>うみのなつをさがしにいこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のと海洋ふれあいセンターの海辺行き、里海の自然と触れ合う。 ・夏の時期に見られる海藻を採る。 <p>カニやアメフラシがいたよ。海藻もたくさんあるね。ぬるぬるしているよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・里海の夏の様子を諸感覚で感じながら、自然と触れ合おうとしている。 <p>【関・意・態】 (行動観察)</p>
	4	夏の時期に見られる海藻や貝について、諸感覚を通して知ることができるようにする。	<p>どんなものを見つけたのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の磯遊びで見つけて採った海藻について、海洋ふれあいセンターの方から、名前を聞く。 ・感じたこと、気がついたことを伝え合う。 <p>この海藻は、ツルモっていうんだ。ひもみたいに長いね。つるつるしているよ。ウミウチワは、小さいね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の時期に見られる海藻について知り、感じたこと、気がついたことを伝えていく。 <p>【思考・表現】 (友達や教師との対話、発表)</p>
	5	磯遊びで気付いたことや発見したことについて、友達に工夫して伝えることができるようにする。	<p>なつのうみは、どんなようすだったかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体験で見付けたものや気付いたことをカードにかく。 ・カードをもとに、夏の海の様子について話し合う。 <p>マメダワラは、触るとぷちぷちしたよ。アメフラシは、ふわふわしていたよ。ワカメもあったね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・磯遊びで気付いたことや発見したことについて、友達ちに工夫して伝えている。 <p>【思考・表現】 (発見カード)</p>
	6	散歩や遊びを通しての夏の里山と里海の様子をマップにまとめ、春との違いや変化に気付くことができるようにする。	<p>なつのようすをマップにまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループに分かれて、前時までに書いた発見カードをもとに、夏の里山と里海の様子をかく。 ・絵を夏の様子マップに貼り、どんなものか発表する。 ・春の写真マップと見比べて、気付いたことを話し合う。 <p>夏には、春と違う楽しさがあったね。夏と春では、ずいぶん変わったんだね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩や遊びを通しての夏の里山と里海の様子をマップにまとめ、春との違いや変化に気付いている。 <p>【気づき】 (発表・振り返りカード)</p>
三	1	水や砂浜での遊びを通して、夏の自然に親しみながら友達と楽しく遊ぼうとする。	<p>みずとすなはまだあそぼう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・砂浜に行き、やりたいことや作ってみたいものを決め、体全体を使い、友達と砂や水などで遊ぶ。 <p>手で砂を丸めてどろだんごを作ったよ。水を流して道を作ったよ。トンネルができたよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水や砂浜での遊びを通して、夏の自然に親しみながら友達と楽しく遊ぼうとしている。 <p>【関・意・態】 (行動観察)</p>

	2	水や砂浜での遊びを通して、それらの特徴に気付くことができるようにする。	<p>どんなあそびができたかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 水や砂浜の様子はどんな感じがしたか、カードに書く。 遊びを通して不思議に思ったことや気付いたことを交流する。 <p>砂でお城を作るときは、バケツいっぱいに入土を入れて、ぎゅってしたら、きれいにできるとわかったよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 水や砂浜での遊びを通して、それらの特徴に気付いている。 <p>【気付き】 (発見カード)</p>
四	1	里海の初秋の様子を諸感覚で感じながら、自然と触れ合おうとする。	<p>どんなものをみつけたかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 夏と同じのと海洋ふれあいセンターの海辺行き、夏と比べながら、里海の自然と触れ合う。 初秋の時期に見られる海藻を採る。 <p>カニやヤドカリがいたよ。でもウミウシやアメフラシがいなかったよ。どうしてかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 里海の初秋の様子を諸感覚で感じながら、自然と触れ合おうとしている。 <p>【関・意・態】 (行動観察)</p>
	2	初秋の海辺マップを作り、夏と比べて、海辺の様子の変化していることに気付くことができるようにする。 (本時)	<p>なつのうみとあきのはじまりのうみをくらべよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の海辺の活動で見つけたものの絵をかく。 絵やカードを「秋の始まり海マップ」に貼り、どんなものをかいたか発表する。 夏と秋の始まりのマップと見比べて、気付いたことを話し合う。 <p>なつとあきのはじまりをくらべると、ようすがかわっているとわかった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 初秋の海辺マップを作り、季節によって海辺の様子が変わっていることに気付いている。 <p>【気付き】 (発表, 振り返りカード)</p>

5 本時の学習（第四次 第2時）

- (1) ねらい 初秋の海辺マップを作り、季節によって、海辺の様子が変化していることに気付くことができる。
- (2) 評価規準 初秋の海辺マップを作り、季節によって海辺の様子が変化していることに気付いている。 【気付き】（発表、振り返りカード）
- (3) 準備・資料等 磯遊び活動の写真、6月と9月に海辺で採集したものの写真、模造紙、発見カード、夏の海辺マップ、大型テレビ
- (4) 展開

学習活動（配時）	教師の働きかけ<>と（・）児童の意識の流れ	評価と（◎）と支援（◆） 留意点（・）
1 前時の活動を振り返り、課題をつかむ。（5分）	<p><秋の始まりの海はどんな様子だったかな。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヤドカリがいたよ。 ・いろんな海草があったな。 ・わかめがなかったね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の活動を思い出すために、活動時の写真を提示する。
2 見つけたものをカードに書く。（15分）	<p>なつとうみとあきのはじまりのうみをくらべよう。</p> <p><海で見つけたものをカードにかいて、秋の始まり海マップをつくろう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウミウチワは大きくなっていて、大きくかこう。 ・アマモは、ねぎみたいだった。 ・ホンダワラは、6月も9月もあったね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏の海マップを提示し見通しを持たせる。 ・カードにかくときの視点を明確にする。 ・絵を描いた後、感じたことを書かせる。
3 カードに書いたものについて発表する。（10分）	<p><秋の始まりの海で見つけたものを発表しよう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウミウチワが前より大きくなっていました。 ・ホンダワラが前よりたくさんありました。 ・カゴメノリがありました。カゴメノリはごつごつしてました。 ・クラゲがいました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思い出せない児童には掲示してある写真等を見るよう話す。
4 夏と秋の始まりの海の様子を比較する。（8分）	<p><夏のマップとくらべよう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月はアメフラシがいたけど、9月はいないね。 ・9月はわかめやもずくがないね。 ・ウミウチワは、6月に比べると大きくなっている。 ・マメダワラは6月も9月もあるね。 	<p>◎初秋の海辺マップを作り、季節によって海辺の様子が変化していることに気付いている。</p>
5 本時の学習をふりかえりまとめをする。（7分）	<p><夏の海と秋の始まりの海を比べて、気がついたこと・分かったことを書こう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏の海と秋の始まりの海は、様子が違うことがわかったよ。 ・6月はあったけど、9月はない海草がある。 	<p>（発表、振り返りカード）</p> <p>◆6月に取った海草と9月にとった海草の大きさを比較できる写真を提示し、気付きが明確になるようにする。</p>
	<p>なつとうみとあきのはじまりのうみのようすをくらべると、かわっていることがわかった。</p>	

6 板書計画

〈なつのうみとあきのはじまりのうみをくらべよう〉

かあとにかく	なつ	あきのはじまり
① え	あめふらし	いない
・おおきさ	あまも	ある
・いろ	かに	いる
・かたち	わかめ	ない
② きづいたこと	うみうちわ	おおきい

あきのはじまりつまふ

なつのうみとあきのはじまりのうみのようすをくらべると、**かわっている**とわかった。

第2学年生活科学学習指導案

場 所 2年教室
指導者 木村 優風

1 単元名 生きものといっしょに ～つくもっこ水族館をつくろう～

2 単元の目標

- ・身近な生きものに関心をもってかかわり、生きものに親しみをもち、大切にしようとする。

【生活への関心・意欲・態度】

- ・生きものの育つ場所、変化や成長について考え、世話のしかたを工夫して、それらを表現することができるようにする。

【活動や体験についての思考・表現】

- ・生きものの世話を通して、その特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付くことができるようになる。

【身近な環境や自分についての気付き】

3 指導にあたって

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領の内容(7)「動植物の飼育・栽培」に基づいて設定したものである。

児童にとって動植物の飼育・栽培は、毎日が感動の連続である。児童は、自分の育てる動物や植物の成長を楽しみにしながら、日々のかかわりを深めていく。校区の周りには豊かな里海があり、のと海洋ふれあいセンターの「屋外タッチプール」では、九十九湾の生きものを観察したり採集したりと、海の生きものに親しむ環境に恵まれている。そこで、「小木の海」の生きものの継続的な飼育を通して、成長することの嬉しさや素晴らしさを知る。また、生きものが死んでしまったり病気になったりした時の辛さは、児童の成長に大切な経験である。そして、生きもののかかわり方を真剣にふり返り、その生命を守っていた自分の存在に児童自ら気付く機会となる。

また、継続的な飼育の過程において「ずっと元気でいてほしい」「すみかを喜んでくれるにはどうしたらいいか」などという願いや思いから、生きものの育つ場所に目を向け、工夫して飼育を行っていくことのできる教材と考える。

(2) 児童観

本学級の児童は、第1学年では、「きせつともだち」で夏と秋に磯観察をし、季節によってみられる生きものや海そうの種類の違いや、大きさ、成長の変化を学習してきた。また、登下校中に見た虫や動物などの話をしたり、休み時間に図鑑で動物や魚などを見て話をしたりするなど、多くの児童が生きものへの興味・関心をもっている。しかし、家で生きものを飼っている児童は少なく、生きものの世話の経験はほとんどない。

第2学年では、1学期は野菜の栽培と国語科の「観察名人になろう」の学習を関連させ、観察記録文を書いた。数種類の野菜の観察を通して、花の色や葉の形の違い、野菜の成長と自身の成長の変化に気付く姿がみられた。また、「生きものといっしょに」の学習で、小木の生きものマップの作成から、

どこにどんな生きものがいて、どんなすみかを好むのかについて考えを深めることができている。生きものに対する抵抗感がない児童であるため、生きものの飼育に興味・関心をもつ姿が多くみられた。

(3) 指導観

本単元では、海の生きものへ親しみをもち、海の生きものを大切にしたいという思いをもつことができるようにしたい。そのために、第一次・第二次を通して、まず海の生きものに親しむことを大切に指導する。

第一次では、里海でじっくりと生きものを探す時間を保障し、多くの生きものと触れ合う場を設定する。見つけた生きものをカードに書きマップにすることで、生きもののすみかに見通しを持たせる。また、磯観察では、「どんなところにいたかな」「どんなものを食べるのかな」と問いかけることで、これからの飼育活動への見通しをもてるようにする。

第二次では、「小木にすむ生きものを1年生に伝える」という目的をもち、飼育活動に取り組む。そのために、飼育したい生きもの・紹介したい生きものを話し合う。また、飼育するうえで、すみかやエサについて話し合ったり、観察したりと日常的なかかわりを繰り返しもたせ、興味・関心を高める。生きものの飼育はグループごとに行い、活動を通して分かったことや気付いたことを誰かに伝えたいという思いを高め、第三次の学習へとつなげる。

第三次では、「つくもっこ水族館をつくろう」というゴールを設定し、1年生を招待する計画を立てる。その際、水族館の様子をつかむため、実際の水族館の写真や動画を見せる。1年生に伝えたいことの焦点を絞り、生きものの観察を行う。生きものの成長や変化に気付くための手立てとして、「観察カード」に観察したことや気付きを書きためていくようにする。書いたカードを友達と交流することで、新たに観察の視点や気付きを得られるようにする。

このような海の生きものを継続して飼育する学習から、本校の目指す児童像である「海の自然に親しみ、進んで関わろうとする児童」につながる素地ができると考える。

4 単元の指導・評価計画 (総時数18時間)

次	時	小単元または指導目標	主な学習活動	評価規準【評価の観点】 (評価方法)
一	1	身近な生きものに関心をもち、見つけたい、飼いたいという願いをもって生きものに関わろうとする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">海にはどんな生きものがいるのかな。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで育てたことのある生きものについて話し合う。 ・知っている海の生きものを話し合う。 <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-top: 5px;">海には、たくさんの魚がいっぱいたね。磯にはどんな生きものがいるのかな。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生きものに関心をもち、見つけたい、飼いたいという願いをもって生きものに関わろうとしている。 <p>【関・意・態】 (発言・行動観察)</p>

	2	身近な生きものに関心を持ち、生きものの住んでいる場所を考えたり、見つけたい生きものを探したりする。	<p>小木の海の生きものかんさつにいこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 海洋ふれあいセンターの屋外タッチプールで、ヤドカリやカニ、貝、エビなどを採集する。 <p>ふれあいセンターにはヤドカリやカニ、貝がいたよ。エビもいたよ。小木の海にはたくさんの生きものがあるね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生きものの居場所を見つけ、様子を観察したり採集しようとしている。 <p>【関・意・態】 (行動観察・発言)</p>
	3	観察した生きものと住んでいる場所について、前時の学習をもとに考える。	<p>どこにどんな生きものがいたのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 磯観察で見つけた生きものの振り返りをする。 見つけた場所と生きものについて話し合う。 <p>いそには、エビや貝、ヤドカリ、カニがいたね。いつもはふかい海にいる赤クラゲがいてびっくりしたね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 観察した生きものとすんでいる場所について考えている。 <p>【思考・表現】 (発言)</p>
	4	見つけた生きものをカードに書き、生きものマップを作成する。	<p>見つけた生きものをマップにまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真を見て、磯観察で見つけた生きものを思い出す。 グループに分かれてカードに書き、「小木の生きものマップ」にまとめる。 <p>どこにどんな生きものがいたのかが分かったね。ヤドカリやカニをかいたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 見つけた生きものの特徴や場所を思い出しながらカードやマップにまとめている。 <p>【思考・表現】 (行動観察・マップ)</p>
二	1	海の生きものを育てることに興味をもつ。	<p>どんな生きものをそだてたいかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1学期の学習を思い出し、学習のゴールの見通しを持つ。 育てたい生きものについて話し合いで決める。 <p>ヤドカリをそだてたいな。1年生にも生きものをおしえてあげたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 海の生きものを育てることに興味をもっている。 <p>【関・意・態】 (発言・行動観察)</p>
	2	身近な生きものに関心を持ち、生きものすんでいる場所を考えたり、見つけたい生きものを探そうとする。	<p>そだてたい生きものをさがしに行こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 海洋ふれあいセンターの屋外タッチプールで生きものを採集する。 採集した生きものすみかや様子などを話し合う。 <p>わたしはアメフラシをそだてるよ。大切にそだてたいな。ぼくはカニをそだてるよ。どうやってそだてればいいのかしらべよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生きものの居場所を見つけ、様子を観察したり採集したりしようとしている。 <p>【関・意・態】 (行動観察・発言)</p>

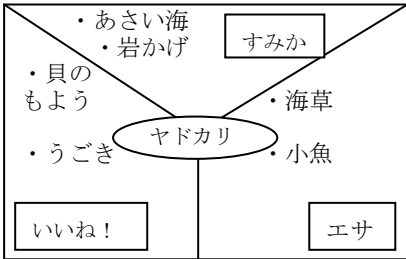
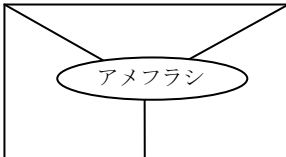
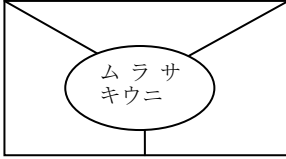
3	生きものを捕まえた場所を思い出し、生きものの世話をする上で必要なことを調べることができるようにする。	<p>すみかやえさはどうすればいいかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生き物を採集した場所を思い出す。 ・図鑑や本で飼育の方法を調べる。 <p>ヤドカリは貝をたべるんだね。すなや岩があるといいと分かったよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生きものを捕まえた場所を思い出しながら、生きものの世話をする上で必要なことを調べている。 <p>【思考・表現】 (行動観察・発言)</p>
4	生きものの世話をする上で必要なことを考えることができるようにする。	<p>すみかやエサのことをおしえてもらおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べたことをゲストティーチャーに聞いてもらう。 ・ゲストティーチャーからアドバイスをもらう。 ・生きものにとってよりよいすみかを話し合う。 <p>海の先生の話聞いて、岩やすなをいれてあげるとよるこぶと分かったよ。早くすみかをつくりたいな。エサもあげたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生きものの世話をする上で必要なことを考えている。 <p>【思考・表現】 (行動観察・発言)</p>
5	生きものを大切に育てるには、その生きものに適した食べ物が必要であることに気付くことができるようにする。	<p>すみかをつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな場所にいるか話し合う。 ・グループごとに住み家をつくる。 ・岩や砂を入れて、生きものすみかをつくる。 <p>エビやカニがよろんでくれてよかったな。エサもたべてくれてうれしいね。でも、いつもより元気がないな。どうしたのかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生きものを大切に育てるには、その生きものに適した食べ物が必要であることに気付いている。 <p>【気付き】 (発言・行動観察)</p>
6	生きものを大切に育てるには、その生きものに適した食べ物が必要であることに気付くことができるようにする。	<p>せわをして、こまったことはないかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・困っていることを出し合う。 ・原因や解決方法を話し合う。 <p>カニがいなくなったわけが分かったよ。エサが少なくて、ヤドカリに食べられてしまったんだね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生きものを大切に育てるには、その生きものに適した食べ物が必要であることに気付いている。 <p>【気付き】 (発言・行動観察)</p>
三	1 学習活動の計画を立てる。	<p>つくもっこ水ぞくかんのけいかくを立てよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の水族館の写真や動画を見て、見通しを持つ。 ・水族館の施設の様子や特徴について話し合う。 ・つくもっこ水族館をつくる計画を立てる。 <p>水ぞくかんにはどんなものがあるか分かったよ。早くつくって、1年生をしょうたいしたいね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水族館制作や生きもの紹介をするための計画を立てている。 <p>【関・意・態】 (発言・行動観察)</p>

2	<p>海の生きものを観察し、発見したことや紹介したいことを伝えることができるようにする。 (本時)</p>	<p>いいね！ポイントを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 水族館の紹介カードを見て、どんなことが書かれてあるといいか確認する。 紹介する生きものを観察し、いいね！ポイントを見つける。 生きもの紹介カードを発表する。 <p>いいね！ポイントを書くときは、見たことや聞こえたこと、においやさわったことなどのかんさつポイントをつかおうと、伝えやすいね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 海の生きものに触れたり世話したりする上で、発見したことや紹介したいことを伝えている。 <p>【思考・表現】 (発言・ホワイトボード)</p>
3	<p>海の生きものについて、不思議に思ったことを調べることができるようにする。</p>	<p>生きもののことをくわしくかんさつしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 詳しく観察し、カードに記録する。 発表会で紹介する内容を決める。 <p>アメフラシのつのみみたいなものはエサをさがすときに使うとわかったよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生きものに触れたり世話をしたりすることで、様々な発見をし、原因や理由などを考えている。 <p>【思考・表現】 (発言・観察カード)</p>
4	<p>海の生きものについて、調べて分かったことや気付いたことなどを、友達と伝え合うことができるようにする。</p>	<p>生きものしょうかいポイントはっぴょう会しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 生きもの紹介したいことを発表し合う。 感想を話し合う。 <p>はっぴょう会をしたよ。知らないことに気づけてうれしかったな。1年生にもっとわかりやすくつたえるためにはどうしたらいいかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 海の生きものについて、調べて分かったことや気付いたことなどを、友達と伝え合っている。 <p>【気付き】 (発表・発言)</p>
5	<p>自分の育てている生きものについて、楽しく紹介したり、その準備をしようとする。</p>	<p>1年生にわかりやすくつたえるには、どうすればいいかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今までのカード等を整理し、世話をしてきた生き物ことを伝える準備する。 <p>1年生にわかりやすくつたえるには、しゃしんや絵を入れるといいとわかったよ。早く1年生におしえてあげたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自分の育てている生きものについて、楽しく紹介したり、その準備をしようとしている。 <p>【関・意・態】 (行動観察)</p>
6	<p>世話をしてきた生きもののかかわりをふり返り、自分なりの方法で表現したり伝えたりすることができるようにする。</p>	<p>1年生を「つくもっこ水ぞくかん」にしようたいしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 担当する生き物を1年生に紹介する。 <p>1年生にしょうかいできてうれしかったな。よろこんでもらえてよかったな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 世話をしてきた生きもののかかわりをふり返り、自分なりの方法で表現したり伝えたりしている。 <p>【思考・表現】 (発表・行動観察)</p>

四	1	生きものの今後を考え、生きものにとってどうすることがよいのかを話し合おうとする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">これから生きものをどうするか話し合おう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの活動をふり返りながら、世話をしてきた生きものを今後どうするか考え、話し合う。 <div style="border: 3px double black; padding: 2px;">今までいたところにもどしてあげるといいね。これからも元気でいてね。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・生きものの今後を考え、生きものにとってどうすることがよいのかを話し合おうとしている。 <p>【関・意・態】 (発言・行動観察)</p>
	2	生きものに対して最後まで責任をもって今後を考え、生きものを大切にしようとする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">おわかれパーティーをひらこう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・今まで育てた生きものに手紙を書く。 ・生きもののお別れパーティーをする。 <div style="border: 3px double black; padding: 2px;">おわかれするのはさみしいけれど、元気にそだってくれるといいな。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・生きものに対して最後まで責任をもって今後を考え、生きものを大切にしようとしている。 <p>【関・意・態】 (行動観察・手紙)</p>

5 本時の学習（第三次 第2時）

- (1) ねらい 海の生きものに触れたり世話したりする上で、発見したことや紹介したいことを伝えることができる。
- (2) 評価規準 海の生きものに触れたり世話したりする上で、発見したことや紹介したいことを伝えている。 【思考・表現】（発言・ホワイトボード）
- (3) 準備・資料等 ミニ水槽，ホワイトボード，紹介カードのモデル，大型テレビ，生きものの写真
- (4) 展開

学習活動（配時）	教師のはたらきかけ<>と児童の意識の流れ（・）	評価(◎)と支援(◆) 留意点（・）
<p>1 水族館の紹介カードを見て、本時の課題をつかむ。（5分）</p>	<p><水族館の紹介カードを見てみましょう。どんなことが書いてありますか。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・どこに住んでいるか（すみか）が書いてあるよ。 ・何を食べているのか（エサ）が書いてあるよ。 ・見てほしいところ（いいね!）も書いてあるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物を大型テレビで提示し、紹介カードに書く視点を共有する。
<p>2 とってきた海の生きものを観察し、紹介カードをまとめる。（25分）</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">いいね! ポイントをかながえよう。</div> <p><紹介したい生きもののどんなところを、1年生に見てほしいですか。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・形や色かな。 ・動きもいいよ。 <p><生きもののいいね! ポイントを見つけましょう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・うにのチクチクしているところをしょうかいしたいね。 ・アメフラシのゆっくりうごくところや、ぷよぷよしている体をしょうかいしたいな。 <p><紹介ポイントをホワイトボードにまとめましょう。></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">  </div> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・観察ポイントに着目させる。 ・ホワイトボードの書き方の例を示す。 ・観察グループに分かれて、紹介したい生きものを1つ選んで、しょうかいカードを仕上げる。 ・早く終わったグループは、ほかの生きものを観察する。 ・発表時に生き物の写真や動画必要な場合、大型テレビで提示する。
<p>4 グループごとに話し合ったことを発表する。（10分）</p>	<p>・わたしたちのグループは、ヤドカリを紹介します。あさい海の岩かげにすんでいます。エサは、海草や小魚です。いいねポイントは、貝のもようや、ちょこちょこうごきです。</p>	<p>◎海の生きものに触れたり世話したりする上で、発見したことや紹介したいことを伝えている。</p>
<p>5 本時の学習をまとめる。（5分）</p>	<p><今日の学習を振り返りましょう。></p> <div style="border: 2px solid black; padding: 5px;">いいね! ポイントを書くときは、見たことや聞こえたこと、においやすわったことなどのかんさつポイントをつかうと、つたえやすいね。</div>	<p>【思考・表現】（発言・ホワイトボード）</p> <p>◆考えやすい項目から考えるよう助言する。</p>

6 板書計画

いいね! ポイントを考えよう。

しょうがいポイント

色 形 大きさ

つぎ もよう

<p>しもす たてま くらた さまはら</p> <p>岩の上</p> <ul style="list-style-type: none"> ゆくり うごくところ アメフラシ 海あふどう 海そう わかめ こんぶ ふもろいから 	<p>りゅうの はまの はいや りろせ</p> <p>岩の下</p> <ul style="list-style-type: none"> ふみく ちとが あけと 細いげが ういゝるところ 海そう ムラサキウニ こんぶ 	<p>きたはま とよた わた やら</p> <p>あゝ海</p> <ul style="list-style-type: none"> はつみ すけは ちこちこ 岩や石の下 うごくところ イソガニ えさま たべゝるところ かたへいから 小魚 にはし はた魚
--	--	--

まとめ

いいね! ポイントを考えるときは、見たこと、聞こえたこと、におい、さわったことなどのからポイントをつかうと、伝えやすいよ。

第3学年 総合的な学習の時間 単元指導計画案

場 所 3年教室

指導者 川崎 祥二

1 単元名 わたしたちの海をまもろう ～海を守るお掃除大作戦～

2 指導にあたって

(1) 児童について

児童たちにとって、海はすぐ近くに感じられる環境にあり、2年生のときには生活科の学習でエビやヤドカリなどを飼育した経験がある。1学期の総合的な学習の時間には、のと海洋ふれあいセンターでの磯観察を通して、九十九湾に生息している生き物と直に触れ合い、生き物の特徴や生息している環境について知ることができた。自分たちの町は自然豊かなすばらしいところであることを感じている。そして、自分たちの町のすばらしさを知ってもらいたいという考えから、九十九湾に生息している生き物を記したハンドブックを作成した。

小木の海はすばらしいところだと感じた一方で、前の単元「わたしたちの海を知ろう」の導入の場面では、「ごみがたくさんあるからきたくない」といったように、きれいな部分だけではないという事に目を向ける児童も見られた。その原因が、自分たちの生活と関係があるという事まではまだ考えられていない。

(2) 本単元で身につけたい資質や能力及び態度

<学習方法に関すること>

①課題を発見し設定する力

海的环境に興味を持ち、漂流物調査を通して課題を見いだす力

海的环境を美化するために自分たちができることを見いだす力

②必要な情報を収集し、分析する力

漂流物についての情報を収集する力

③情報をまとめ、表現する力

海的环境を美化するために、地域の人に呼びかける方法を話し合う力

漂流物の調査から分かったことをまとめ、表現する力

<自分自身に関すること>

④課題解決に向けて行動する力

海的环境を美化するために、お掃除大作戦を実行する力

<他者や社会とのかかわりに関すること>

⑤他者と協同して課題を解決する力

課題を解決するために、関係する専門機関の方や友だちと協同して活動する力

(3) 教材について

一学期の活動で、九十九湾は自然豊かなきれいなところでもあるが、ごみもあるということが分かっている。普段の生活から、海岸にはお菓子の袋や空き缶などの生活ごみが落ちているということは予想している。しかし、実際には釣り人が残していった釣り糸や漁に使う道具、外国から流れ着く物など様々な種類のごみがある。そこで漂流物の調査を通して、海には様々な種類のごみがあり、それらが環境に及ぼす影響を知ることで、自分たちの生活を見直すきっかけとしていきたい。また、漂流物調査では海上保安署の方と一緒に活動したり、ごみが環境に及ぼす影響について話していたりして、環境保全のために努力している人々の気持ちにも触れさせたい。そして、身近な海の美しさを守っていくために自分たちにできることは何なのかを考え実行させたい。

3 単元の目標

- ・海岸の環境に興味を持ち,主体的に漂流物を拾ったり,調べたり,海岸の美化活動のために,課題を見いだしたりすることができる。 【学習方法に関すること①】
- ・課題について必要な情報を適切に収集し,計画的に調べることができる。 【学習に関する方法②】
- ・調べたことや考えたことを,相手意識を持って,分かりやすく表現することができる。 【学習に関する方法③】
- ・海岸の環境を美化するために活動することができる。 【自分自身に関すること④】
- ・課題解決するために,関係する専門機関の方や友だちと,共同して活動することができる。 【他者や社会とのかかわりに関すること⑤】

4 単元の評価規準

	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
評価規準	①海岸の環境に興味を持ち,主体的に漂流物を拾ったり,調べたり,海の美化活動のために,課題を見いだしている。 ②課題について必要な情報を適切に収集し,計画的に調べている。 ③調べたことや考えたことを,相手意識を持って,分かりやすく表現している。	④海の環境を美化するために活動している。	⑤課題解決するために,関係する専門機関の方や友だちと,共同して活動している。

5 単元の指導・評価計画 (総時数 18時間)

次	時	小単元または指導目標	主な学習活動	評価規準【評価の観点】(評価方法)	他教科との関わり
一	1	自分たちをとりまく海の環境について課題意識を持つ。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 九十九湾はほんとうに素晴らしい海といえるのかな。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・九十九湾の環境について話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 九十九湾はいろんな生き物がいて,きれいな景色も見られるけど,ゴミもあって汚れているところもあったね。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちをとりまく海の環境について課題意識を持っている。 【学①】(発言)	国語
	2	海の環境を調べる方法を考える。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> どうすれば海の汚れについて調べられるかな。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・海の汚れを調べる方法について話し合う。 ・どんなゴミが落ちているか予想する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 海岸へ出かけて,どんなごみが落ちているか確かめてみよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・海の汚れについて調べる方法について考えている。 【学②】(発言)	国語

3 5	海岸の環境を調査する。	<p>海岸がどれくらい汚れているか調べよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 海岸に出かけてどんなごみがどれくらい落ちているのか調べる。 <p>いろいろなごみがあって、海岸は思ったよりも汚れているね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 海岸の漂流物について適切に調査している。【学②】(行動観察) 友達と協同して観察している。【他⑤】(行動観察) 	国語
6	調査した結果をまとめる。	<p>どんなごみがどれくらいあったかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査した結果をまとめる。 <p>海岸にはいろいろなごみがたくさんあったね。海をきれいにしなくてははいけないね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 海岸の漂流物について調査した結果をまとめている。【学③】(発言・ワークシート) 	国語
7	海をきれいにする方法を考える。 (本時)	<p>海のごみをなくすために、自分たちにできることを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 海をきれいにするために、自分たちにどんなことができるか話し合う。 <p>海へ行って、ごみ拾いをしよう。地域の人や遊びにきた人にも呼びかけよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 海をきれいにするための方法を考えている。【自④】(発言・ワークシート) 	国語
8	海の美化を呼びかける方法を考える。	<p>地域の人や遊びに来た人に呼びかける方法を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の人や観光客に効果的に呼びかける方法を考える。 <p>海をよごさないでほしいことを伝えるためキーホルダーを考えて、イカす会で配ろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 効果的に呼びかける方法を考えている。【自④】(発言) 	国語

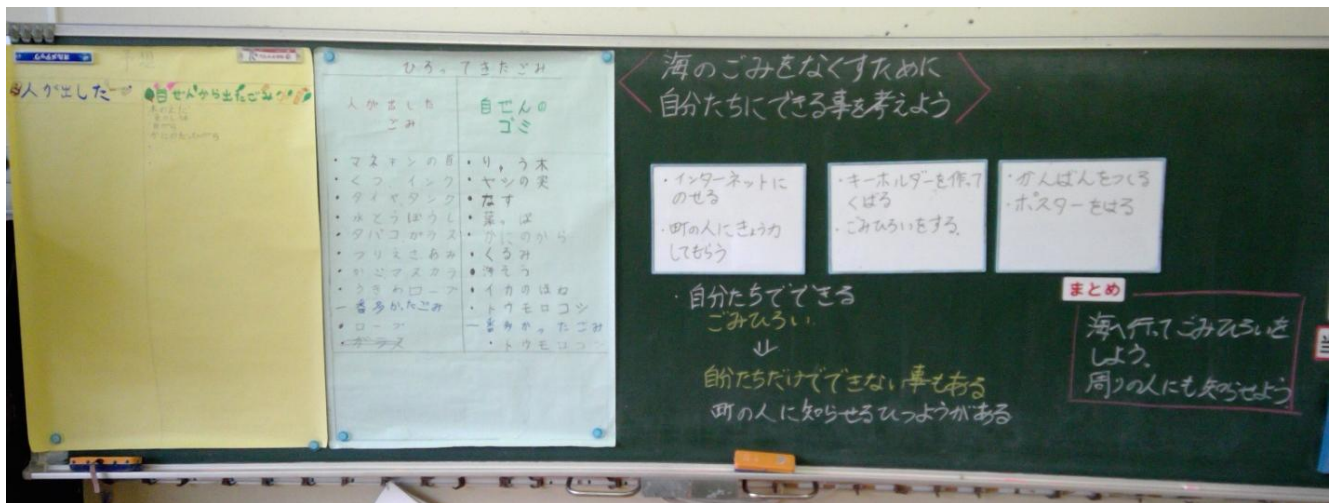
9	どんなキーホルダーにするか話し合う。	<p>海をきれいにしてほしいことを伝えるために、どんなキーホルダーがいいか話し合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素材,イラスト,形,文字などの観点で,どんなキーホルダーにすればよいか話し合う。 <p>どんなキーホルダーにするか決まったよ。海をよごさないでほしいことが伝わるといいね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・観点にそって効果的に呼びかける方法を考えている。【自④】(発言・ワークシート) 	国語
10 〜 13	キーホルダーを製作する。	<p>海をよごさないでほしいことをつたえるためのキーホルダーを作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合ったことをもとに,デザインを考え,キーホルダーを作る。 <p>キーホルダーができたね。イカす会でみんなにわたそう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちと協同して製作している。【他⑤】(行動観察) 	図工
14 〜 18	海岸を清掃する。	<p>自分たちで海をきれいにしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海岸清掃をする。 ・学習の感想をまとめる。 <p>海がきれいになったよ。ずっときれいだといいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで海岸清掃に取り組んでいる。【自④】(行動観察・感想) 	

6 本時の学習(第一次 第7時)

- (1) ねらい 海をきれいにするための方法を考えることができる。
 (2) 評価規準 海をきれいにするための方法を考えている。【自④】(発言・ワークシート)
 (3) 準備・資料等 大型テレビ,ワークシート,ホワイトボード,ボードマーカー
 (4) 展開

学習活動(配時)	教師のはたらきかけ<>と児童の意識の流れ(・)	評価(◎)と支援(◆) 留意点(・)
1 前時の学習を振り返る。(7分)	<海にごみがあるとなぜ困るのでしょうか。> ・釣り糸にからまって動けない生き物がいる。 ・ビニル袋を飲み込んでしまう魚もいるなんて知らなかった。 ・ごみが原因で生き物が死んでしまう。 ・海をよごさないでほしいな。	・海岸の画像を提示する。 ・前時にまとめた表を掲示しておく。(種類,出した人等)
2 本時の課題をつかむ。(3分)	海のごみをなくすために,自分たちにできることを考えよう。	
3 自分の考えを持つ。(7分)	<海のごみをなくすためにどんなことができるか考えよう。> ・ごみをすてないようにしよう。 ・海岸へ行ってごみを拾おう。 ・かんばんをつくろう。 ・ごみ箱をおこう。 ・ポスターをかいて,みんなに知らせよう。 ・テレビやインターネットで知らせよう。	◎海をきれいにするための方法を考えている。 ◆ごみは誰が出したものであったかを確認し,だれが,だれに,どんな方法で,よびかけるのかを明確にするよう話す。【自④】(発言・ワークシート)
4 課題について話し合う。(23分)	<グループで考えを交流し,発表しよう。> ・自分たちがごみを捨てないように気をつけたいと思う。捨てなければきれいになると思う。 ・テレビやインターネットだったらたくさんの人に知らせることができると思うよ。 ・ポスターだと色々な人が見てくれるよ。	・理由をつけて話すことを確認する。 ・グループでホワイトボードに書いてまとめさせる。
5 まとめをする。(5分)	<今日の学習をまとめましょう。> 海岸へ行って,ごみ拾いをしよう。地域の人や遊びにきた人にも呼びかけよう。	・自分たちができると,他の人に呼びかけることがあることに気づかせる。

7 板書計画



8 その他

○ワークシート

名前()

◎海のごみをなくすために、自分たちができることを考えよう。

1. 自分の考え

2. グループでの話し合い

3. 今日のまとめ

第4学年 総合的な学習の時間 単元指導計画案

場 所 4年教室

指導者 梅木 あゆみ

1 単元名 小木発信プロジェクト ～イカす小木 イカすCMで PR!～

2 指導にあたって

(1) 児童について

児童は、3年生のときに九十九湾のごみ拾いを通して、九十九湾の美化活動に取り組んできた。学習のゴールとして、「海を大切にしてほしい」という願いをこめて作成したキーホルダーを、今年6月のイカす会で地域の方や観光客に向けて配る活動をした。これらの学習を通して、児童は、ふるさとの海に関心を持つことができている。

1学期には、イカについての調べ学習をした。イカに関心のある児童は多く、本やインターネットを使ったり、漁業組合の方にインタビューしたりして、イカの体のつくり・性質、釣り方について調べることができた。調べ学習を通して、ふるさとの海により誇りをもったようだが、小木のイカを広めたい、能登町以外の人に知ってほしいと感じる児童は限られている。

調べる学習については、国語科で調べたことを整理し相手に分かりやすいように発表する方法を学習してきている。学習したことをきっかけに、インターネットや本、インタビューから自分に必要な情報を取り出し、発表の内容や組み立てを考える力がついてきている。

(2) 本単元で身に付けたい資質や能力及び態度

<学習方法に関すること>

①課題を発見し、設定する力

イカに興味を持ち、調べ学習やインタビューを通して課題を見いだす力

私たちの町を「イカの町」として、能登町の人々に発信するために、自分たちにできることを見いだす力

②必要な情報を収集し、分析する力

イカについての情報を収集する力

③わかりやすくまとめ、表現する力

イカについて調べたことをまとめ、表現する力

私たちの町を「イカの町」としてCMを作り、能登町の人々に発信する力

<自分自身に関すること>

④目標を設定し、課題の解決に向けて行動する力

イカについて調べ、私たちの町を「イカの町」として発信するために、地域の人や能登町の人々に伝える計画を実行する力

<他者や社会とのかかわりに関すること>

⑤他者と協同して課題を解決する力

課題を解決するために、関係する専門機関の先生方や友達と、協同して活動する力

(3) 教材について

小木のイカは、児童にとって身近な水産物である。小木港で水揚げされる水産物の9割がイカであり、冷凍イカ水揚げ量は日本海側で1位を誇っている。昔からさかんであるイカ釣りは、減少しつつも今でも続いている。また、小木にはイカにスポットライトを当てた「イカす会」という行事がある。平成20年度、一度はなくなったものの、“小木住民が一丸となって小木の町に賑わいを作ること”を目的として、平成25年度以降再開され、毎年行われ活気づいている。これらのことから、子どもたちの住む小木の町がイカの町であることに誇りを持つために、イカを学習することが大切であると考え。本単元では、能登町の小学4年生に小木の町に関する実態アンケートをとった。アンケート結果で半分以上の子どもたちが、「小木はイカの町で有名」とは知らないと分かっ

た。そこで、その課題をどのように解決していくかを児童に考えさせ、ゴールとしては、小木はイカの町で有名であると知ってもらうために、能登町の子どもたちに向けたCM作りでPRすることを目指す。CMでは、伝えたい内容を歌詞にして“イカす SONG”として30秒でまとめる。

本時では、イカのおいしさや新鮮さを伝えるために、イカす SONG にどんな歌詞をのせるかを考える。前時では、伝えたい“おすすめポイント”を付箋に書き、4つのテーマ（捕り方・冷凍保存・料理・加工品）に整理した。その付箋を思考ツールとして利用しながら、グループに分かれて作詞する。

3 単元の目標

- ・イカに興味を持ち、調べ学習やインタビューを通して、私たちの町を「イカの町」として、能登町の人々に発信するために、課題を見いだしたりすることができる。【学習方法に関すること①】
- ・課題解決に向けて必要な情報を収集し、計画的に調べることができる。【学習方法に関すること②】
- ・調べたことや考えたことを、相手意識を持って、分かりやすく表現することができる。【学習方法に関すること③】
- ・イカについて調べ私たちの町を「イカの町」として発信するために活動することができる。【自分自身に関すること④】
- ・課題解決するために、関係する専門機関の先生方や友達と、協同して活動することができる。【他者や社会とのかかわりに関すること⑤】

4 単元の評価規準

	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
評価規準	①イカに興味を持ち、調べ学習やインタビューをしたり、私たちの町を「イカの町」として、能登町の人々に発信するために、課題を見いだしたりしている。 ②課題解決に向けて必要な情報を収集し、計画的に調べている。 ③調べたことや考えたことを、相手意識を持って、分かりやすく表現している。	④イカについて調べ、私たちの町を「イカの町」として発信するために活動している。	⑤課題解決するために、関係する専門機関の先生方や友達と、協同して活動している。

5 単元の指導・評価計画

(総時数 25 時間)

次	時	小単元名 または指導目標	主な学習活動	評価基準 【評価の観点】 (評価方法)	他教科 との関連
一	1	イカの何についてPRするのか考える。	<p>小木の町、イカの町をPRするために、「イカのどんなみりょく」を伝えればいかな。</p> <p>・能登町の4年生の実態アンケートをもとに、小木の町、イカの町をPRするためにはどんな魅力を伝えればいかに考える。</p> <p>・イカのおいしさや新鮮さをPRすることについて話し合う。</p> <p>・ふるさとCMを見てイメージをつかむ。</p> <p>能登町の4年生に、イカのおいしさや新鮮さについてPRしよう。早く調べたいな。</p>	<p>・小木の町とイカに興味を持ち、課題を見いだしている。</p> <p>【学②】(行動観察)</p>	社会
二	1 し 3	イカのおいしさや新鮮さの秘密について調べ学習をする。	<p>イカのおいしさや新鮮さのひみつを調べよう。</p> <p>・調べる項目、調べる方法を考える。</p> <p>・グループに分かれて、図鑑やインターネットで調べる。</p> <p>イカのおいしさや新鮮さのひみつは冷とう保存が関係していると分かったよ。調べたことを報告したいな。</p>	<p>・イカに興味を持ち、調べ学習やインタビューを通して課題を見いだしている。</p> <p>【学①】 (行動観察・ワークシート)</p>	国語
	4	ミニ報告会をする。	<p>調べたことを整理しよう。</p> <p>・調べたことをまとめ、ミニ報告会をする。</p> <p>・もっと知りたいことはないか話し合う。</p> <p>調べたことを整理して報告できたよ。でも、まだ知りたいことがあるから、かわいい人に聞きたいな。</p>	<p>・調べたことや考えたことを、相手意識を持って、分かりやすく表現している。</p> <p>【学③】(発言)</p>	国語

	5 ・ 6	漁協に行って漁協の人に話を聞く。	<p>漁協に行って、イカのおいしさや新せんさのひみつを見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小木漁協に行き、漁協の人の話を聞いたり、見学したりして、おいしさや新鮮さの秘密について考える。 <p>イカがおいしくて新せんさというひみつが、漁協の人の話や漁協にある冷とう倉庫から分かったよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで情報を収集し、考えを持とうとしている。 <p>【自④】(行動観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決するために、関係する専門機関の先生方に尋ねている。 <p>【他⑤】(行動観察)</p>	社会
	7	調べたことを報告し合う。	<p>分かったことを整理しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調べてきたことや分かったことをまとめる。 ・まとめたことを発表する。 <p>調べたことを報告できたよ。イカのおいしさや新せんさを伝えるCMはどんな内容にしたらいいのかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことや考えたことを、相手意識を持って、分かりやすく表現している。 <p>【学③】(行動観察)</p>	国語
三	1	CMの中心となる内容を考える。	<p>能登町の4年生に、イカのおいしさや新せんさが伝わるようなおすすめポイントを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イカす SONG に取り入れる内容を考える。 ・キャッチコピーを考える。 <p>おすすめポイントは〇〇になったね。キャッチコピーは〇〇に決まったね。早く歌詞を考えたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを持って友達と話し合い、伝えたいCMの内容を考えている。 <p>【他⑤】(話し合い・発言)</p>	国語

2	イカす SONG の作詞する。 (本時)	<p>おすすめポイントを入れた歌詞を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに分担して歌詞を考える。 ・全員で出来上がった歌詞で歌う。 <p>①冷凍保存についての歌詞を同じグループのみんなで作りました。</p> <p>②能登町の4年生に、特に伝えたい言葉は何か考えることが大切だと分かりました。おすすめポイントを全部入れたかったけれど、それでは16拍におさまらなかったからです。</p> <p>③みんなで作ったら気持ちよかったです。早くCM作りがしたいです。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを持って友達と話し合い、歌詞の内容を考えている。 <p>【他⑤】 (話し合い・発言)</p>	国語 音楽 道徳
3	試しのCMを 考える。	<p>試しのCMを作る準備をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カット割りを知る。 ・役割(衣装小道具班・ダンス班・合奏班)を決める。 <p>役割も決まったよ。早くCMをとりたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことや考えたことを、相手意識を持って、分かりやすく表現している。 <p>【学③】(行動観察)</p>	国語 図工 音楽 体育
4 し 7	試しのCMを 作る。	<p>試しのCMを作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班に分かれてCM作りを進める。 ・毎時間ふりかえりを班ごとに報告し合う。 ・全員で合わせる。 <p>試しのCMができたよ。早くさつえいしたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調べたことや考えたことを、相手意識を持って、分かりやすく表現している。 <p>【学③】(行動観察)</p>	国語 図工 音楽 体育
8 ・ 9	試しのCMを 撮影する。	<p>試しのCMをさつえいしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャッチコピーを作成する。 ・撮影に必要な道具を準備する。 ・撮影場所へ行き、撮影する。 <p>試作品CMができたよ。上手にできたかな。早く見たいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小木の町を「イカの町」として発信するために活動している。 <p>【自④】(行動観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と協働してCM作りをしている。 <p>【他⑤】(行動観察)</p>	国語 社会 図工 音楽 体育

10	試写会①をする。	<p>試写会をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成した試しのCMの試写会をする。 ・感想を交流し合う。 <p>もう少し改善が必要だな。もっとイカのおいしさや新せんさ伝えるためにはどんなことが必要かな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・完成したCMを見て、課題を見いだしている。 <p>【学①】(話し合い)</p>	国語
11 ・ 12	改善点や改善策を話し合い撮り直す。	<p>もっとPRするCMにするにはどうしたらいいかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成したCMを見て、感想を話し合う。 ・改善点を話し合い、改善策を考える。 ・作成するものやカットわりを考え、撮り直す。 <p>もっとイカのおいしさや新せんさを伝えるCMにするには、最初にキャッチコピーを見せたほうがいいね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・完成したCMを見て、課題を見いだしている。 <p>【学①】(話し合い)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と協働してCM作りをしている。 <p>【他⑤】(行動観察)</p>	国語 社会 図工
13	試写会②をする。	<p>試写会をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撮り直したCMを見て、感想を交流する。 ・相手に伝わるCMにするにはどうしたらいいかについて考える。 <p>もっとイカのおいしさや新せんさを伝えないとだめだな。アドバイスを参考に本番CMを作るぞ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・完成したCMを見て、課題を見いだしている。 <p>【学①】(話し合い)</p>	国語
14 ・ 15	改善策をもとに本番CMをつくる。	<p>本番CMをつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・撮影に必要な道具を作成する。 ・改善策をふり返り、撮影する。 <p>キャッチコピーを見せるタイミングや、内容に入れる場面を改ぜんしてCMができたぞ。早くみたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小木の町を「イカの町」として発信するために活動している。 <p>【自④】(行動観察)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達と協働してCM作りをしている。 <p>【他⑤】(行動観察)</p>	国語

	16	本番CMを鑑賞し、感想を伝え合う。	<p>本番CMを見て感想を伝え合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本番CMを見て、感想を伝え合う。 <p>試しのCMよりもいいCMができたよ。早くみんなに見てもらいたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・完成したCMを見て感想を伝えている。 <p>【学③】(発言)</p>	道徳
四	1	学習の振り返りをする。	<p>学習の振り返りをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動シートや活動写真を見て、学習の振り返りをする。 <p>CM作りをしてもっと小木の町がイカの町だと知ることができたよ。CMを見て、小木の町はイカの町と知ってくれたらいいな。これから自分の町の誇りを持っていきたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「イカの町」として発信するために活動している。 <p>【自④】(感想)</p>	道徳

6 本時の学習 (第三次 第2時)

- (1) ねらい 自分の考えを持って友達と話し合い、歌詞の内容を考えることができる。
- (2) 評価規準 自分の考えを持って友達と話し合い、歌詞の内容を考えている。

【他⑤】(話し合い・発言)

- (3) 準備・資料等 ワークシート (個人用), 前時に書いた“おすすめポイント”の付箋, ワークシート (グループ用), ホワイトボード, マジック, ラジカセ, CD (担当パートのメロディーが入っているもの), 大型テレビ, タブレット

(4) 展開

学習活動 (配時)	教師のはたらきかけ<>と児童の意識の流れ (・)	評価 (◎) と支援 (◆) 留意点 (・)
1 本時の課題をつかむ。(8分)	<p><前の時間は何をしましたか。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イカのおすすめポイントを調べました。 <p><イカす SONG を聞きましょう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうやって歌詞をのせようかな。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">おすすめポイントを入れた歌詞を考えよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の既習 (おすすめポイント) をまとめたものを提示する。 ・前時で考えた“おすすめポイント”を使ってイカす SONG の歌詞を作ることを確認する。
2 課題について考える。(20分)	<p><グループで歌詞を考えましょう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「一本凍結」という言葉は絶対入れたいね。 ・「新鮮だな〜。」より「新鮮だ!」と言い切ったほうが印象づくんじゃない。リズムにも合うよ。 ・〇〇さんの意見いいね。ぼくの考えた「おいしい」よりも「新鮮でおいしい」の方が伝わるね。 ・イカす SONG にのせて歌ってみようよ。 ・この部分, 早口になってしまって, 聞きにくいかもしれないね。 <p><グループごとに歌って発表しましょう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・よく 16 拍でまとめたね。すごいなあ。 ・合いの手が明るい雰囲気を出していていいね。 ・「新鮮だ」が強調されていてよかったです。 ・振り付けをつけたくなるね。 <p><全員で, 最初から最後まで通して歌いましょう。直したいところはありますか。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムが合わない。 ・3 班と 4 班の歌詞は繋がっているから, (助詞の「は」を, 「も」に変えたほうがいいね。 <p><仕上がった歌をみんなで歌いましょう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで歌うと気持ちいいね。 <p><歌を聴いてみましょう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・おすすめポイントがちゃんと聞こえるよ。 ・この歌に乗せて本物のイカや料理を映そうよ。 ・CM 作り一歩進んだね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班ごとに担当パート (16 拍ずつ) の歌詞をテーマに合わせて考える。 1 班…捕り方 2 班…冷凍保存 3 班…料理 4 班…加工品 ・16 拍でおさめること, 合いの手という技法があることを伝える。 ・歌詞を書くようホワイトボードとマジックを各グループに用意する。 ・各班にラジカセを用意し, 自分の担当するパートのメロディーを繰り返し流しておく。
3 全体で話し合う。(10分)	<p><全員で, 最初から最後まで通して歌いましょう。直したいところはありますか。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムが合わない。 ・3 班と 4 班の歌詞は繋がっているから, (助詞の「は」を, 「も」に変えたほうがいいね。 <p><仕上がった歌をみんなで歌いましょう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・みんなで歌うと気持ちいいね。 <p><歌を聴いてみましょう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・おすすめポイントがちゃんと聞こえるよ。 ・この歌に乗せて本物のイカや料理を映そうよ。 ・CM 作り一歩進んだね。 <p><今日の学習の振り返りをしましょう。></p>	<p>◎自分の考えを持って友達と話し合い, 歌詞の内容を考えている。</p> <p>【他⑤】(話し合い・発言)</p> <p>◆前時に作成した, “おすすめポイント” が書かれた付箋を操作しながら話し合いをするよう伝える。</p>
4 学習を振り返り次時の見通しを持つ。(7分)	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <p>①冷凍保存についての歌詞を同じグループのみんなで考えました。</p> <p>②能登町の4年生に, 特に伝えたい言葉は何か考えることが大切だと分かりました。おすすめポイントを全部入れたかったけれど, それでは16 拍におさまらなかつたからです。</p> <p>③みんなで歌ったら気持ちよかったです。早くCM作りがしたいです。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・次はCM作りのための係決めをしましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの班で歌詞が重なった場合には, 全体で新しい歌詞を考える。 ・CM 作りのイメージを高めたり期待感がもてたりできるように, 最後に歌う場面で児童の歌う姿を録画し, 大型テレビで動画を見る ・しわか (したこと・分かったこと・感想) で振り返る。 ・振り返りを読み合う。

7 板書計画

<おすすめポイントを入れた歌しを考えよう。>

1はん

小本のみんなに
見送られ(あひかり)
中かた弁分て
出された イッコボリ

合いの手 明るふんいぬ

2はん

つた物は
一本とう糸結
最高に新せんた!

「新せだ!」強調◎

3はん

さ〜あ 食べよう
さし身・イカめし・
ずがた焼き(うまい)

おすすめポイント◎
振り付けつけたい!

4はん

いかせんべい
つみれ
いしるはおいしい!

「は→も」にかえよう。
リズム◎

きまり)

- ・16はくでおさめる。
- ・合いの手は ()で書く。
(例) (おいしいは!)

45分の手定

- ① かだい
- ② グループで歌しを考える。
- ③ 歌しを発表する。
- ④ 歌う
- ⑤ ふり返り

ふり返り

①
②
③
④

8 その他

○ ワークシート (個人用)

()月()日()曜日 名前

小木発信プロジェクト ~イカす小木 イカすCMで PR!~

課題 < >

ふり返り

.....


.....

.....

.....

.....

.....



○ ワークシート (グループ用)

「 」のおすすめポイント (各たんどうするテーマを書こう。)	CMの歌しに入れる「おすすめポイント」 (歌しに出す順番にはろう。)

この欄に、前時で整理したおすすめポイントの付箋を貼る。

第5学年里海科学習指導案

場 所 5年教室

指導者 加賀 浩

1 単元名 わたしたちの食生活と食料生産 水産業のさかんな地域 ～能登町の水産業を見つめて～

2 単元の目標

日本の水産業や海運、海洋資源について調べ、人々の豊かな生活を支えてきた海の様々な役割やきまりを理解して、海を利用しようとする事ができる。

3 単元の評価規準

里海科への 関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
我が国や能登町の水産業の様子に関心をもち、意欲的に調べることを通して、自分たちの食生活を支える我が国の水産業の発展を考えようとしている。	我が国や能登町の水産業の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え表現し、調べたことを基に、我が国の水産業が自分たちの食料を確保するために重要な役割を果たしていること、自然環境と深いかかわりをもって営まれていることを考え、調べたことや考えたこと適切に表現している。	水産業が自分たちの食生活を支えていること、主な漁港、漁場の分布、水産業に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働き、現在の問題点や今後に向けての取り組みを地図や地球儀、統計などの各種の基礎的資料を効果的に活用して調べている。	我が国や能登町の水産業が自分たちの生活を支えていること、主な漁港、漁場の分布、水産業に従事している人々の工夫や努力、生産地と消費地を結ぶ運輸の働き、現在の問題点や今後に向けての取り組みなどについて理解している。

4 指導にあたって

(1) 教材観

本単元は、里海科における『海を知る』に位置づけられる。

単元全体を通して、我が国や能登町の水産業に関心をもち、日本人の食生活や魚の輸入量の変化、主な水産物の漁獲量や漁場、主な漁港の分布、水産業に従事している人々の生産を高める工夫や努力、魚を消費地へ運ぶ運輸の働きなどについて追究する。持続的で安定した水揚げの確保のために、養殖漁業や栽培漁業で、生産を高めていることや、消費者に新鮮で安全なものを生産し出荷するために様々な工夫や努力をして、国民の食生活を支えていることをとらえることができる教材である。また、地図や写真資料、統計グラフなどの資料を活用し、複数の資料を比較したり、関連付けたりしたりして、国民の食生活を支えている食料生産の意味や、生産を高める工夫や努力について考えを深めることができる教材である。

小木町で盛んな漁業としては、イカ漁がある。イカ漁は、自動いか釣り機によりイカ針(疑似餌)を海中に投入し、引き上げる時にイカを漁獲する方法であり、夜間の場合は漁灯を点灯させ、光に集まるイカを漁獲する。中大型船では、船内冷凍設備の向上により、釣り上げたイカを一尾ずつ急速凍結

して鮮度を保ち、水揚げする。また、能登町の漁業ではイカ漁の他に、近海の海で季節の魚貝類を獲る底引き漁業や、能登で発祥し発達した漁業として定置網漁などがある。能登町を含む内浦海岸で、最も盛んに行われている定置網漁は、海中に網をしかけ、移動する魚を網の中に誘導して捕まえる漁法であり、魚の習性を逆手に使っている。定置網漁は、魚を捕りつくす漁法ではないため、資源に優しい漁法であるが、漁獲量が安定しないという問題点がある。また、漁業従事者が減少し、高齢化しているという問題点もある。そこで、漁業関係者は、漁業の機械化を進めたり、「宇出津港の寒ブリ」としてブランド化して、全国各地に広めるPR活動をしたりするなどの工夫や努力もしている。能登町の定置網漁と漁業関係者の取り組みについて学習することは、自然環境との深い関わりや現在の問題点、自分たちが住んでいる地域の水産業に従事している人々の工夫や努力への理解を深めるために適している。

(2) 児童観

児童の住む小木地区は、良港に生まれ、昔から漁業が盛んな地域である。イカ釣り船を中心とした沖合漁業や沿岸漁業が盛んにおこなわれ、イカの町として町民にも浸透している。児童たちは総合の学習の時間で、3年生時に海を守るために何ができるかを考え、自分たちの思いを伝えるためにキーホルダーやマスコットづくりを行い、イカす会というイベント時に配布をした。また、4年生では、「イカの町小木」をPRするためのCM作りを行い、小木のイカのおいしさの秘密やイカを使った産物などについてまとめて発信した。5年生になりイカす会に参加して、イカの体の秘密や習性、イカの獲り方なども学習を通しておおまかな知識として身につけている。また、これらの学習を通して、小木漁協を訪ねたり、漁業に従事している人にインタビューをしたりして、小木の漁業と生活の結びつきはおおまかにはとらえてきた。しかし、能登町全体に視野を広げると定置網漁などイカ釣り以外の漁業に従事している人々も多かったり、能登町の水揚げ量の変化、漁業に携わる人の減少などの漁業が抱える問題点をとらえたりするまでにはいたっていない。

また、社会の学習「米作りのさかんな地域」を通して、米作りを生産者と消費者の立場から考えることで、米作りに従事する人の苦労や努力、工夫を理解することはできた。しかし、地図や写真、統計グラフなどの資料の読み取りには個人差がある。資料を正しく読み取ることが十分でないために、自分の考えを表現することを苦手としている児童も数名いる。

(3) 指導観

単元の導入では、「能登町の水産業について調べよう」という単元の学習課題をとらえることができるように、我々が日ごろスーパーで買っている「魚の産地調べ」からスタートする。新聞のチラシをもとに私たちが日ごろ食べている魚はどこから来ているのかを集約し、地元だけではなく日本各地、ときには外国から輸入していることをつかむ。そして、いろいろな魚の流通に目を向けさせながら、「世界と日本、石川県の水産物の年間消費量」のグラフを提示し、水産物がわたしたちの生活に身近で欠かせないものであることやイカ釣り以外の漁業も盛んであることに気づかせる。その後、さらに課題意識を持って学習に取り組むことができるように、「うみとさかなの科学館」を見学して初めて知ったことや疑問に感じたことをもとに学習計画を補正しながら、単元末には、これからの水産業で特に大切だと思うことを中心に交流することを確認していく。

第二次では、能登町の漁業の特徴がとらえられるように、日本の他の地域の水産業と比較しながら学習を進める。そして、能登町の定置網漁の様子と問題点を調べ、漁業関係者をゲストティーチャーとして招き、利益を上げるための「能登寒ブリ」などのブランド化の取り組みや漁業後継者の確保と

育成、漁業の機械化を中心とした話を聞くことで、漁業に従事する人々の苦勞と工夫や努力に気づくことができるようにする。

また、単元全体を通して、根拠を明確にして自分の考えを持つことができるように、地図や写真、統計グラフの見方を確認しながら進めるとともに、自分の考えを説明できるように、ペアやグループなどの学習形態を十分に取り入れながら対話が深まるように指導していく。

5 単元の指導・評価計画（総時数 11時間）

次	時	小単元名 または指導目標	主な学習活動	評価規準【評価の観点】 (評価方法)
一	1	わたしたちの食生活と水産物 (本時)	<p>どのような水産物を食べているかをもとに、単元の学習課題をつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界各国と日本、石川県の水産物の消費量を比較する。 スーパーのチラシをもとに、日頃食べている魚がどこから来たのかを考えながら、小木のイカや能登寒ブリの話を変え、身近な水産物が日本や世界の各地で獲れること、小木のイカや能登町で獲れた海産物が他の地域で食べられていることを知る。 石川県の市町別漁獲量をもとに、能登町の漁業の特色を捉える。 <p>私たちの食べている魚はいろいろなところからきている。逆に能登町でとれた魚も日本中に配送されている。イカ釣り漁業以外の漁でどのように魚をとっているか調べたい。能登町の漁業について調べいきたい。</p> <p style="text-align: center;">能登町の水産業について調べよう！</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日ごろ、口にしてしている水産物に興味をもち、日本全体や能登町が水産物の消費量が多い理由や水産物がどこでとれているのか意欲的に調べようとしている。 <p>【里海科への関心・意欲・態度】 (発言・ワークシート)</p>
二	1 2	能登町の水産業	<p>能登町では、どのような漁業がさかんなのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「うみとさかなの科学館」を見学し、能登町では定置網漁が盛んであることを知る。 日本には、様々な漁法があることを知る。 初めて分かったことや疑問に思ったことを見学ノートにまとめ、整理する。 <p>能登町では、定置網漁がさかんだと分かったよ。日本にはいろいろな漁法があるけれど、どうして定置網漁がさかんなのかな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 能登町の定置網漁の様子について、意欲的に調べようとしている。 <p>【里海科への関心・意欲・態度】 (発言・見学ノート)</p>

3	めぐまれた漁場	<p>なぜ、日本のまわりの海で魚がたくさんとれるのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の主な水揚げの多い漁港の位置や様子，水あげの内わけについて調べる。 日本の周りが恵まれた漁場になっている理由を，資料をもとに調べる。 <p>日本のまわりの海は，海流が流れ，大陸だなが広がっているから，めぐまれた漁場になっているのだね。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 海流や大陸だなの関係から，日本の周辺の海がよい漁場になっていることを地図やグラフを関連付けて読み取っている。 <p>【技能】 (発言・ノート)</p>
4	宇出津漁港周辺の様子	<p>なぜ能登町のまわりの海で魚がたくさんとれるのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 宇出津港の水揚げ量や水揚げの数量が多い魚について知る。 能登内浦海域の海流や漁港周辺の施設について調べる。 <p>能登内浦海域は，深層水が豊富で，入りくんだ地形のため，たくさんの魚が集まってくるのだね。宇出津港では，水産に関わるたくさんの施設が整備されてきているから水揚げ量が多いことが分かったよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 海流の関係で能登沖がよい漁場になっていることや，様々な施設が充実していることなどから，宇出津港の水あげ量が多い理由について考えている。 <p>【思考・判断・表現】 (発言・ノート)</p>
5	能登の定置網漁	<p>定置網漁とは，どんな漁業の方法なのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本には，様々な漁法があることを知る。 定置網漁をする場所や方法について資料をもとに調べる。 <p>定置網漁は，回遊してくる魚群を待ちかまえてとる漁法だね。とりつくす漁法ではないから，資源に優しい漁法だよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定置網漁は，魚の習性や海流を生かした漁であることを理解している。 <p>【知識・理解】 (発言・ノート)</p>

6	定置網漁が抱える問題	<p>能登町の定置網漁が抱える問題について考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 定置網による水揚げ量、水揚げ金額、漁業就業者の変化のグラフ等を提示し、能登町の定置網漁が抱える問題点について話し合う。 能登町の定置網漁が抱える問題について、漁業従事者が工夫や努力をしているという視点でゲストティーチャーから話を聞く。 <p>定置網漁は、水揚げ量が不安定で、若い働き手が減少し、高齢化するなどの問題があるよ。でも、定置網漁をする人たちは、機械化を進めたり、金庫網を設置し、ブリをブランド化したりするなどの工夫や努力をして、収入が多くなるようにしているよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 統計資料をもとに、能登町の漁業が抱える問題について考えている。 <p>【技能】 (発言・ノート)</p>
7	日本の水産業のかかえる問題	<p>日本の水産業にはどんな問題点があるのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の水産業の漁獲量が減ってきている理由を、資料をもとに考える。 <p>200海里制限、漁場の環境の悪化、魚のとりすぎ、外国からの輸入の増加、働く人の減少と高齢化などが原因で、漁獲量が減ってきていることが分かったよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 200海里の問題や漁場の環境の悪化、魚の減少などにより、漁獲量や漁業従事者が減少している日本の水産業の現状から、我が国の水産業がかかえる問題について考えている。 <p>【思考・判断・表現】 (発言・ノート)</p>
8	育てて、とる養殖業	<p>減ってきた漁獲量を増やすために、どんな取り組みをしているのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> トラフグの養殖業について調べたこと（家庭学習）をもとに、カキ貝の養殖業と比べ、養殖業のよさや問題点を考える。 養殖業に携わる人々の工夫や努力をまとめる。 <p>カキ貝を養殖するために、働く人たちは、いろいろな工夫や努力をしていることが分かったよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 穴水のカキを出荷するまでの働く人の工夫や努力、養殖業が水産物の生産を担っていること、一方で赤潮やえさ代などの費用の高さなどの問題点があることを理解している。 <p>【知識・理解】 (発言・ノート)</p>

	9	魚をとりながら、増やすための取り組み	<p>漁獲量を増やすために、他にはどのような取り組みを行っているのかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・栽培漁業について調べ、よさや問題について考える。 ・能登町の水産物の資源管理の新たな取り組みについて調べる。 <p>漁獲量を増やすために栽培漁業を行っているよ。能登町では、底引き網で海底を清掃したり、休漁期間を設けたりして、水産物の資源管理などに取り組んでいることが分かったよ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁獲量を増やすために栽培漁業などの水産物の資源管理の取組が進められていることを理解している。 <p>【知識・理解】 (発言・ノート)</p>
三	1	調べたことをまとめる。	<p>これから能登町は、水産業を続けていくためにどんな方法を大切すべきかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの学習をふり返る。 ・課題に対する自分の考えをまとめ、意見交流をする。 <p>これからの能登町の水産業では、資源管理が大切だと思うよ。それに漁業従事者を増やす取組も必要だね。もっと水産物を消費していきたいな。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの水産業で大切だと思うことをまとめ、自分の考えを表現している。 <p>【思考・判断・表現】 (ノート・話し合い)</p>

6 本時の学習（第一次 第1時）

(1) ねらい

日ごろ、口にしている水産物に興味をもち、日本全体や能登町が水産物の消費量が多い理由や水産物がどこでとれているのかを調べることができる。

(2) 評価規準

日ごろ、口にしている水産物に興味をもち、日本全体や能登町が水産物の消費量が多い理由や水産物がどこでとれているのかを意欲的に調べようとしている。

【里海科への関心・意欲・態度】（発言ワークシート）

(3) 準備・資料等

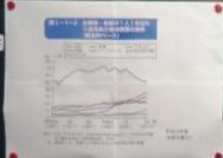
スーパーのチラシ、日本の水産物の消費量のグラフ等、大型テレビ、PC

(4) 展開

学習活動 (配時)	教師のはたらきかけ<>と児童の意識の流れ (・)	評価 (◎)と支援 (◆) 留意点 (・)
<p>1 本時の課題をつかむ。 (5分)</p> <p>2 作業を通して水産物の産地を調べる。 (15分)</p> <p>3 調べて分かったことについて話し合う。 (10分)</p> <p>4 「石川県の漁獲量の表」を見て石川県の漁業について考える。 (10分)</p> <p>5 学習のまとめをする。 (5分)</p>	<p><日本は水産物をどれくらい消費しているか、世界と比べてみよう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 予想では、人口の割には多いと思う。 ・ 日本はたくさん魚を食べているはず。 <p><魚をたくさん食べる県民はどこだろう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 石川県も多いと思う。 ・ 日本海側が多い。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>どのような水産物を食べているかをもとに、単元の学習課題をつくろう。</p> </div> <p><私たちの食べている水産物はどこからきているか、スーパーのチラシを使って調べよう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元産が多い。 ・ 中国とか外国からも来ている。 ・ 県外からも来ているよ。いろいろな種類の魚があった。 ・ いろいろなところからきているぞ。 <p><調べて分かったこと、疑問に思ったことを話し合おう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ いろいろなところから魚が来ていた。 ・ 外国もあったよ。いろいろな国からきている。 ・ どうやってとっているのか？ <p><地元の漁師さんがとった魚だけでは足りないのかな。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 違う。小木のイカはいろいろなところに運ばれていたはずだ。 <p><たくさん魚介類を消費している日本・石川県の漁業はさかんなのか、漁獲量を見て考えよう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元産が多かったので、盛んなはず。 ・ 能登町も多いのでは。どの町の漁業が盛んなのかな？ ・ 能登町は石川県でも多い方だ。 ・ いろいろな漁法で魚をとっているんだな。 ・ イカ以外でも、能登町ではたくさん魚をとっている。 <p><今日の学習で、感想やもっと調べてみたいと思ったことを発表しよう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 能登町でとれた魚が東京などに運ばれていることがわかりました。 ・ 定置網漁はどんな漁法なのだろう。調べてみたい。 ・ 能登町の漁業が石川県でも盛んなことがわかりました。 ・ いろいろな漁業の仕方について調べてみたい。 <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>私たちの食べている魚はいろいろなところからきている。逆に能登町でとれた魚も日本中に配送されている。イカ釣り漁業以外の漁でどのように魚をとっているか調べたい。能登町の漁業について調べていきたい。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「世界と日本の水産物の年間消費量」「県別魚介類消費量」のグラフや表を提示し石川県でもたくさん魚が食べられていることを確認する。 ・ 自分たちの生活をふり返り、本時の学習課題を示す。 ・ 日ごろ食べている水産物について喚起しながら、産地を調べる。 ・ 気の付いたことをワークシートにまとめる。 <p>◎日ごろ、口にしてしている水産物に興味をもち、日本全体や能登町が水産物の消費量が多い理由や水産物がどこでとれているのかを意欲的に調べようとしている。【里海科への関心・意欲・態度】(ノート・発言)</p> <p>◆自分の考えを持ってない児童には統計資料に着目し他と比較したり、ペアで話をしたりして考えるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「石川県の漁獲量」の表を提示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ グループで考えたことをホワイトボードに提示しながら、考えを共有する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 次の学習内容を確認する。

7 板書計画


つかじ



魚をたくさん食べている。
日本は多い。
中国が増えている。
日本でも青森県が一番多い。


考える

どのような水産物を食べているかをもとに
単元の学習課題をつくらう。



覚める

- 漁業は さかん？
- 能登町では
 - 小型底びき網
 - 大型定置網
 - 沿岸 近海いか釣り



まとめ

私たちの食べている魚は、いろいろなところから来ている。
能登町でとれた魚も日本中に配送されている。
いか釣り漁業以外の漁でどのように魚をとっているか
調べている。能登町の漁業の様子を調べよう。

十月六日(金)

第6学年里海科学習指導案

場 所 6年教室

指導者 梶 麻希

1 単元名 漁師の仕事を知ろう ～能登町の漁師として生きる～

2 単元の目標

海にかかわる仕事の体験や施設の見学を通して、海其自然や文化に親しんだり、海にかかわる多様な仕事に触れたりして、進んで海にかかわることができる。

3 単元の評価規準

里海科への 関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
漁師の仕事について調べたり、話を聞いたりすることを通して、能登町の漁師の思いや生き方を知り、能登町の一員としてふるさとのよさに気付いている。	漁師の仕事について調べたり、話を聞いたりすることを通して、能登町の漁師の思いや生き方を知り、自分たちにできることを考えている。	漁師の仕事について資料を活用して調べたり、話を聞いたりして、レポートにまとめている。	海にかかわる仕事について考えることを通して、漁師の思いや生き方が能登町の漁業の発展につながることを理解している。

4 指導にあたって

(1) 教材観

本単元は、里海科における『海に親しむ』『海を知る』に位置づけられる。

小木地区は昔から漁業で栄えており、その中でもイカ漁は今でも盛んに行われている。本単元では、小木地区から能登町に視点を広げ、能登町の漁業に焦点を当てる。能登町は、日本有数の定置網漁場である。その定置網漁に従事する漁師に、日々の作業内容や仕事に対する思いなどについて話していただく。漁師の漁にかける思いや苦労、ふるさと能登町を思う気持ちなど、漁師としての生き方に触れることで、能登町のよさに気づき、ふるさとに誇りと愛着をもつことができると期待している。さらには、漁師の生き方を知ること、児童自身が自らの生き方を考えるきっかけになると考える。

また、県立能登高校「おとり丸」の乗船体験や定置網漁「日の出大敷」の見学など、能登町の海にかかわる仕事の見学や体験を通して、進んで海にかかわろうという意識を高めることができる。

そして、次の単元につながるように、奥能登食材流通機構と連携を図り、能登町でとれる様々な海産物について知る。主に地域の食材の代表であるイカ（水産物）の様々な加工品を扱うことで、伝統的な保存食、調味料などにも触れ、先人の知恵や発酵食品等にも興味関心を広げていく。

(2) 児童観

児童は、第5学年里海科において能登町の水産業について学習してきている。定置網の仕組みや漁法、定置網漁が抱える問題点、漁業従事者の工夫や努力などについては既に学んでいる。定置網漁は季節ごとにとれる魚が移り変わることや資源にやさしい漁法であることを知ることができた。また、「うみとさ

かなの科学館」の見学や、漁業従事者の話を実際に聞くことで、能登町の漁業への興味を持つこともできた。さらに、定置網漁の大変さや能登町の漁師が高齢化していること、若い漁師がとても少ないことをとらえていた。

今年度に入ってから、5月に『海に親しむ』『海を知る』『海を守る』という視点で「イカのまち小木～イカす会に参加しよう～」を学習した。事前学習としてイカの生態や獲り方、調理法などグループで調べ、まとめたことを交流した。「イカす会」では、石川県水産総合センターの漁業指導調査船である白山丸に乗船し、イカの習性や獲り方のビデオ学習、実際に機械を動かしてもらい、イカを獲る様子を見学した。また、獲ったイカの急速冷凍の様子も確認している。事前学習と「イカす会」で見学したことを十分に関連させることで、知識と体験の一致を図ることができた。事後学習の小中合同海岸クリーン作戦では、中学生とともに地区のゴミを拾う活動を通して、海に面した自分たちの住む地区の海を守ることの大切さを学ぶことができた。

7月末には、金沢大学臨海実験施設で「親子で学ぶ里海・夜の自然観察会」に参加し、集魚灯に集まるプランクトンや小魚を見ることで、海の中の「食べる」「食べられる」の関係について実感を伴いながら学習することができた。顕微鏡で動くプランクトンを見て、親子で実感を伴いながら食物連鎖について学ぶことができた。

児童は、これまでの海に親しむ学習や探究活動から、小木や能登町の海への興味関心が高まってきている。アンケートでは、全員が「小木の海が好き」「小木の海を大切にしたいと思う」と回答していることから、地域の海に対する愛着を持ち始めていることが分かる。しかしながら、地域の海と人との関わりをとらえるには至っていない。家族に漁業関係者として従事している児童もいるが、その仕事内容や仕事に対する思いには、ほとんど関心がないという実態がある。

(3) 指導観

単元の導入では、第5学年で学習した定置網漁について想起させ、能登町の漁業従事者が高齢化し、若い漁師が減っている中で、定置網漁に従事する漁師がどのような思いで仕事をしているのかについて予想させ、課題意識を持たせていく。そして、漁師の仕事について知りたいことをブレーストーミングで話し合わせ、調べたいことを焦点化していく。グループごとに定置網漁の仕事について調べ、交流した後、日の出大敷の中田洋助さんの協力を得て、仕事の現場を見学させていただく。見学したことをまとめていく中で、漁師の仕事の大変さや魅力を考えさせ、漁師として生きる道を選んだ理由を予想させていく。そして、実際に日の出大敷の中田洋助さんをゲストティーチャーとして招き、ふるさと能登町の海や漁業に対する思い、漁師として生きる道を選択するに至った思いを語っていただく。児童の住んでいる能登町のよさを見つめ直したり、児童自身がこれからの生き方を考えていくきっかけになったりすることを期待する。

また、次の単元をつなげていくために、「魚」という部分だけではなく、その土地の「文化」特に「食文化」にもつながっていることに気付けるように、生産者から消費者までが一通りの体験となるようレポートにまとめさせていく。

5 単元の指導・評価計画（総時数 6時間）

次	時	小単元名 または指導目標	主な学習活動	評価規準【評価の観点】 (評価方法)
一	1	能登町の漁業を ふり返り，学習 課題を設定す る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">能登町の漁師のことを知るための，学習課題を設定しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・能登町の漁師が仕事をしている様子を DVD で見て，「能登町は漁業の町」と言えるか考える。 ・能登町の漁師が高齢化し，若い漁師が減っているわけを考える。 ・漁師がどのような思いで漁業に従事しているのかを予想する。 ・学習課題「漁師の仕事を知ろう ～能登町の漁師として生きる～」を設定する。 ・漁師の仕事について知りたいことをブレインストーミングで話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">若い漁師が減っている中で，どうして能登町で漁師になる道を選んだのだろうか。漁師はどんな仕事をしているのだろうか。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁師の思いを予想し，話し合うことを通して，今後の課題設定しようとしている。 <p>【里海科への関心・意欲・態度】 (発言・ワークシート)</p>
二	1	漁師の仕事について調べる。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">漁師の仕事について調べよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに漁師の仕事（仕事内容，一日の生活など）について調べ活動を行う。 ・分かったこと，疑問点，もっと知りたいことなどを話し合う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">漁師の仕事内容が少しだけ分かった。もっとくわしく調べたい。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁師の仕事について，資料を活用して進んで調べている。 <p>【技能】 (行動観察・発言・ワークシート)</p>

2	漁師の仕事について知る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">漁師の仕事について知ろう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・能登町の漁業について（能登町の各地域で行われている漁法，獲れる海産物） ・定置網漁について（漁法の紹介，年間を通じて獲れる魚種，模型で説明） ・現場の声（漁師の日々の作業内容，漁師の思い等）を聞く。 ・事前に学習したことを確認したり，疑問点などを質問したりする。 <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-top: 10px;">漁師の仕事がよりくわしく分かった。大変な仕事だけど，やりがいがありそうだ。漁師さんの思いも少し聞くことができた。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・能登町の漁業や漁師の仕事について理解している。 <p>【知識・理解】 （発言・ワークシート）</p>
3	漁師の仕事場を見学する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">漁師の仕事場を見学しよう。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・定置網はどんなところでどのように行われているのか，仕事場（日の出大敷）の見学をする。 <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-top: 10px;">漁師の仕事場を見学して，今までよりもっと仕事の大変さが分かったよ。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁師の仕事内容を理解し，漁師の思いを考えている。 <p>【知識・理解】 （行動観察・感想）</p>
4	漁師の思いや生き方を知る。 （本時）	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">漁師の方は，どんな思いで仕事をしているのだろうか。</div> <ul style="list-style-type: none"> ・漁師の仕事について調べたことをふり返り，漁師の方がどんな思いで仕事をしているのか予想する。 ・漁師の仕事に対する思い，能登町の海に対する思い，漁師として生きる道を選択した理由などを聞く。 <div style="border: 3px double black; padding: 5px; margin-top: 10px;">漁師は，能登町や漁が大好きで，とても大切に思っていることが分かった。漁師として生きていくことは大変だけど，やりがいがあることも分かった。</div>	<ul style="list-style-type: none"> ・能登町の漁師の思いや生き方を知り，能登町の一員としてふるさとのよさに気付いている。 <p>【里海科への関心・意欲・態度】 （発言・ワークシート）</p>

三	1	<p>漁師の仕事についてまとめ、自分たちにできることを考える。</p>	<div data-bbox="502 208 1098 309" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>漁師の仕事についてレポートにまとめ、交流しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・漁師の仕事についてレポートを交流し、自分たちにできることを話し合う。 ・分かったことや、もっと知りたいことを確認する。 <div data-bbox="502 459 1098 611" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>漁師の仕事についてレポートにまとめられた。これからは、能登町の海をもっと大切にしたり、地元の海産物を消費したりしたい。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・漁師の仕事について調べたことや聞いたことをレポートにまとめている。 <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちにできることを考えている。 <p>【思考・判断・表現】 (発言・ワークシート)</p>
---	---	-------------------------------------	--	---

6 本時の学習（第二次 第4時）

- (1) ねらい 能登町の漁師の思いや生き方を知り、能登町の一員としてふるさとのよさに気付くことができる。
- (2) 評価規準 能登町の漁師の思いや生き方を知り、能登町の一員としてふるさとのよさに気付いている。 【里海科への関心・意欲・態度】（発言・ワークシート）
- (3) 準備・資料等
- (4) 展開

学習活動（配時）	教師の働きかけ<>と児童の意識の流れ（・）	評価（◎）と支援（◆） 留意点（・）
1 これまでの学習をふり返り、考えたことを発表する。 （5分）	<p><漁師の仕事を調べてきて気づいたことや考えたことを発表しよう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁師の仕事は、力があるから大変そうだ。 ・毎日欠かさずあれだけの仕事をするのは簡単ではない。 ・漁師の人は、どうして他の仕事ではなく漁師の道を選んだのだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事前にワークシートにまとめさせておく。
2 課題をつかむ。 （3分）	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 漁師の方は、どんな思いで仕事をしているのだろうか。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入を想起させ、若い漁業従事者が減っていることをおさえる。
3 課題について考え、話し合う。 （10分）	<p><漁師になったわけや漁師の仕事を続けているわけを考えてみましょう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・能登町の海や自然が好きだから。 ・漁業は大変だけど、楽しいから。 ・家族が漁師で、仕事を受け継いだから。 ・能登町の漁業の伝統を守るため。 ・お金が儲かるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、ホワイトボードでまとめ、発表する。
4 漁師の思いや生き方を知る。 （15分）	<p><漁師の方のお話を聞きましょう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族が漁師だったから漁師になったけれど、続けてこられたのは、能登でとれる魚をみんなに食べてもらいたいという思いがあったからだ分かった。 ・仕事は大変なこともあるけれど、これからはずっと漁師として生きていくという強い気持ちがあると分かった。 ・漁師の仕事には、やりがいや喜びがある。 	
5 GT に手紙を書く。 （12分）	<p><漁師の方に手紙を書きましょう。></p> <ul style="list-style-type: none"> ・漁師の仕事は大変だけど、魅力があるから頑張っている。それで、自分たちも新鮮でおいしい魚が食べられる。感謝していただきたい。 ・漁業で頑張っている人がいる能登町のことがもっと好きになった。今日のお話を聞いて、自分もこれからの生き方を少し考えてみたい。 ・もっと能登町の海を大切にしようと思った。自分たちにできることを考えてみたい。 <p><今日の学習をふり返ろう。></p> <div style="border: 3px double black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> 漁師の方は、能登町や漁が大好きで、とても大切に思っていることが分かった。漁師として生きていくことは大変だけど、やりがいや喜びがあることも分かった。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・GTのお話から感じたことや考えたことを手紙に表す。 <p>◎能登町の漁師の思いや生き方を知り、能登町の一員としてふるさとのよさに気付いている。</p> <p>【里海科への関心・意欲・態度】 （発言・ワークシート）</p> <p>◆漁師の方のお話から感じたことを率直に書くように助言する。</p>

7 板書計画

10/6 (金)

漁師の方は、どんな思いで仕事を
しているのだろうか。

漁師になっただけ・漁師の仕事が続いているわけ

海が好き 仕事にやりがいがある ↓ 大変だが、楽し けるという	家族が漁師 →受けつた。 ・伝統を受けつづけたため	・漁業は、魚がたぐい とればもつかるから。 ・海や能登野が好き なところから。	・漁師になる人が少ない から。⇒ ・漁師にあこがれて、た がら。
---	---------------------------------	--	---

日の出大敷 中田洋助さん

手紙を書こう!

漁師の方に伝えたいこと
中田さんのお話から...
感じたこと
考えたこと

まとめ

漁師の方は能登野や漁業を大切に
思ってる。漁師という仕事は大変だが
やりがいや喜びもある。

～海に親しむ～

1 単元設定の理由

本単元は、学習指導要領の内容(5)季節の変化と生活、(6)自然や物を使った遊びに基づいて設定したものである。身近な自然とは、児童が繰り返しかかわることのできる自然であるとともに、四季の変化を実感するのにふさわしい自然である。学習指導要領解説生活編では、身近な自然の例として、川や土手、野原のほか、海や山なども掲げられている。そこで、本校の海洋教育と関連し、身近な自然を「校庭」と校舎裏の「九十九っ子の森」、校区の「のと海洋ふれあいセンター」の海辺の3つに設定した。1年を通して、里海と里山の両面から自然と繰り返し関わることで、見られる生き物や様子が違うこと、季節による様々な自然の変化などに気付くことができることをねらいとしている。

2 単元目標

年間を通して身近な自然に触れ、近くの公園まで散歩したり、自然に触れ合ったりする活動を通して、身近な自然に関心を持ち、季節の移り変わりを実感できるようにする。

3 単元の評価規準

生活科への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気付き
進んで自然と触れ合い、自然の変化や不思議さを感じ取り、諸感覚を用いた遊びや生活を楽しもうとしている。	四季の変化について自分なりに考えたり、身近な自然物を利用した遊びを工夫したりして、それらを表現している。	自然と触れ合い、楽しく遊びながら、季節の変化や遊びの楽しさ、自然の不思議さに気付いている。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	諸感覚を通して里海の自然と触れ合う。 ・のと海洋ふれあいセンターの海辺へ行き、里海の自然と触れ合う。 ・夏の時期に見られる海藻を採集する。	・事前に、のと海洋ふれあいセンターの職員の方にどのようなねらいをもつての学習なのか打ち合わせをしておく。 ・救命胴衣、マリンスーツ着用 ・箱メガネを借用
2	磯遊びで各自が見付けて採集した海藻について交流する。 ・のと海洋ふれあいセンターの自然体験室に移動し、前時の磯遊びで見つけて採った海藻について、職員から、名前を聞く。 ・海藻に触れて感じたこと、気がついたことを伝え合う。	・児童の主体的な表現や気付きを大切にするため、海藻の名前や生える時期だけを教えてもらう。

1年 単元名「きせつとともにだち～いろやかたちをみつけた～」(生活科 里海に関する時間 3時間)
～海に親しむ～

1 単元設定の理由

本単元は、学習指導要領の内容(5)季節の変化と生活、(6)自然や物を使った遊びに基づいて設定したものである。身近な自然とは、児童が繰り返しかかわることのできる自然であるとともに、四季の変化を実感するのにふさわしい自然である。学習指導要領解説生活編では、身近な自然の例として、川や土手、野原のほか、海や山なども掲げられている。そこで、本校の海洋教育と関連し、身近な自然を「校庭」と校舎裏の「九十九っ子の森」、校区の「のと海洋ふれあいセンター」の海辺の3つに設定した。1年を通して、里海と里山の両面から自然と繰り返し関わることで、見られる生き物や様子が違うこと、季節による様々な自然の変化などに気付くことができることをねらいとしている。

2 単元目標

年間を通して身近な自然に触れ、近くの公園まで散歩したり、自然に触れ合ったりする活動を通して、身近な自然に関心を持ち、季節の移り変わりを実感できるようにする。

3 単元の評価規準

生活科への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気付き
進んで自然と触れ合い、自然の変化や不思議さを感じ取り、諸感覚を用いた遊びや生活を楽しもうとしている。	四季の変化について自分なりに考えたり、身近な自然物を利用した遊びを工夫したりして、それらを表現している。	自然と触れ合い、楽しく遊びながら、季節の変化や遊びの楽しさ、自然の不思議さに気付いている。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	夏と同じ、のと海洋ふれあいセンターの海辺に行き、初秋の里海の自然と触れ合う。 ・夏と比べながら、諸感覚で里海の自然と触れ合う。 ・初秋の時期に見られる海藻を採る。	・事前に、のと海洋ふれあいセンターの職員の方にどのようなねらいをもつての学習なのか打ち合わせをしておく。 ・救命胴衣、マリンスーツ着用 ・箱メガネを借用
2	磯遊びで各自が見付けて採集した生き物や海藻について交流する。 ・のと海洋ふれあいセンターの自然体験室に移動し、前時の磯遊びで見付けて採った生き物や海藻について、職員の方から、名前を聞く。 ・自然に触れて感じたこと、気がついたことを伝え合う。	・児童の主体的な表現や気付きを大切にするため、生き物や海藻の名前や生える時期だけを教えてもらう。 ・採集した海藻の名前と写真を記録しておく。
3	初秋の海辺マップを作り、夏と比べて、海辺の様子が	・活動の様子を思い出すために、活動時

<p>変化していることに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の海辺の活動で見つけたものの絵をかく。 ・絵やカードを「秋の始まり海マップ」に貼り，どんなものをかいたか発表する。 ・夏と秋の始まりのマップと見比べて，気付いたことを話し合う。 	<p>の写真を提示する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ物の絵をかいた児童から順番に発表して，マップに貼っていく。 ・「なつのうみマップ」と「あきのうみマップ」を見比べることにより，季節の変化や違いに気付くことができるようにする。
<p>外部連携／教材等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・のと海洋ふれあいセンター ・能登里海教育研究所 浦田 慎先生 <p>【資料】のと海洋ふれあいセンター『《九十九湾》磯の生き物図鑑』</p>	

5 活動の様子



磯観察①



季節ごとに比べると…



磯観察②



海マップ

採集したものの交流

6 成果・課題

- 夏と初秋の海マップを見比べることで，季節による海の中の変化に気付くことができた。
- 気づきを交流する場を設定し，友だちとの表現の違いを見つけ，表現の仕方が広がってきた。また，交流を通して新たな気づきが生まれ，もっと身の回りの自然について知りたいという思いを持つようになった。

▲天候や海洋ふれあいセンターと事情により，日程調整が難しかった。

▲気付いたことを友達と交流する場面で，一人一人の気づきを全員で共有し高めていくことはできた。しかし，より意欲的に活動したり，気づきの質を高めたりするためには，幼児や異学年の児童や地域の人などに伝える場を設定していく必要がある。

7 子どもの反応やミニ感想

- ・なつのうみよりあきのはじまりのうみのほうが，いろんなものがあった。いきものがいなかった。
- ・なつはかいそうがあったけど，あきになるとかいそうがふえている。

2年 単元名「生きものといっしょに～うみの生きものとなかよし～」(生活科 里海に関する時間7時間)

～海に親しむ～

1 単元設定の理由

本単元は、学習指導要領の内容(7)「動植物の飼育・栽培」に基づいて設定したものである。

児童は、自分の育てる動物や植物の成長を楽しみながら、日々生きものとの関わりを深めている。そこで、学校の周りや校区にある豊かな里海にすむ生きものを観察することにした。のと海洋ふれあいセンターの「屋外タッチプール」では、九十九湾の生きものを観察したり採集したりと、海の生きものに親しむ姿が見られた。

本学習では、「小木の海」の生きものの継続的な飼育を通して、自身も生きものと同じように成長することや、成長の嬉しさや素晴らしさを知ることができると思う。また、生きものが病気になったり、死んでしまったりした時の辛さは、児童の成長に大切な経験となる。そして、生きものとの関わり方を真剣にふり返り、その生命を守っていた自分の存在に児童自らが気づく機会である。継続的な飼育の過程においては、「ずっと元気でいてほしい。」「どんなすみかが好きなのかな。」などという願いや思いを感じ、考えてほしいため、本単元を設定した。

2 単元目標

身近な生きものを探したり、観察したりしながら継続的に飼育活動を行い、育つ環境・成長・変化の様子に関心をもつとともに、生きものに親しみをもち、生きものにも生命があることに気付くことができるようにする。

3 単元の評価規準

生活科への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気付き
身近な生きものに関心をもってかわり、生きものに親しみをもち、大切にしようとしている。	生きものの育つ場所、変化や成長について考え、世話のしかたを工夫したりして、それらを表現することができるようにする。	生きものの世話を通して、その特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付くことができるようにする。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	海にいる生きものを知る。 ・育てたことのある生きものについて話し合う。 ・知っている海の生きものを話し合う。	・海の生きものの写真や映像を提示する。
2 3	磯の生きものを観察する。 ・海洋ふれあいセンターの「屋外タッチプール」で、どこにどんな生きものがあるか見つけ、採取する。 ・採取した生きものを観察し、観察カードに記録する。	・事前に、どのような生きものがあるか予想していく。 ・救命胴衣、マリンスーツを着用する。

2年 単元名「生きものといっしょに～つくもっこ水族館をつくろう～」(生活科 里海に関する時間 17時間)

～海に親しむ～

1 単元設定の理由

- ・生きものの継続的な飼育を通して、自身も生きものと同じように成長することや、成長の嬉しさや素晴らしさを知ることができるようにするため。
- ・生きものとの関わり方をふり返り、その生命を守っていた自分の存在に児童自らが気付くため。

2 単元目標

身近な生きものを探したり、観察したりしながら継続的に飼育活動を行い、育つ環境・成長・変化の様子に関心をもつとともに、生きものに親しみをもち、生きものにも生命があることに気付くことができるようにする。

3 単元の評価規準

生活科への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気付き
身近な生きものに関心をもつてかかわり、生きものに親しみをもち、大切にしようとしている。	生きものの育つ場所、変化や成長について考え、世話のしかたを工夫したりして、それらを表現することができるようにする。	生きものの世話を通して、その特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付くことができるようにする。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 3	育てたい生きものについて話し合い、海へ探しに行く。 〽 ・育てたい生きものを見通しを持つ。 ・海洋ふれあいセンターの「屋外タッチプール」で、育てたい生きものを採取する。	・1学期に見つけた海の生きものの写真を提示する。 ・天候や海の状態を考慮し、早めに時間を設定する。
4 6	育てる生きものについて考える。 〽 ・すみかやえさについて調べ学習をする。 ・分からないことをGTに聞く。 ・GTとともに生きものすみかを作る。	・事前に、本を厳選しておく。
7	つくもっこ水族館の計画を立てる。 ・どんな水族館にしたいか、どのような準備が必要かについて話し合う。	・水族館の動画や写真を提示し、イメージを持たせる。
8 12	水族館の準備をする。 〽 ・生きもの紹介カードを作成する。 ・飾り物を作成する。 ・招待状を作成する。	・水族館にある実際の紹介カードを提示し、伝える内容を示す。

3年 単元名「わたしたちの海を知ろう ～どんな生き物がすんでいるかな～」（18時間）

～海に親しむ・海を知る・海を守る～

1 単元設定の理由

身近な海と触れ合う事で親しみを持ち、ふるさとを大切にしていこうという気持ちを育む。

2 単元目標

九十九湾での磯観察や、見つけた生き物を記録したハンドブック制作を通して、身近にある海のすばらしさに気づくことができる。

3 単元の評価規準

	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
評価規準	① 海に住んでいる生き物に興味を持ち、課題を見いだしている。 ② 課題について必要な情報を適切に収集し、計画的に調べている。 ③ ③調べたことや考えたことを、相手意識を持って、分かりやすく表現している。	① 海の生き物や環境について自ら調べようとして活動している。	① 課題解決するために、関係する専門機関の方や友だちと、協同して活動している。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	小木の海のよさについて話し合う。 ・九十九湾はどんな海か、自分たちの考えを話し合う。	
2 ～ 5	九十九湾の生き物について調べる。 ・九十九湾で磯観察をし、どんな生き物がいるのか観察する。 ・調べたことをまとめる。	・救命胴衣着用
6 ～ 8	ハンドブックの内容について話し合う。 ・どのような方法であれば九十九湾のすばらしさが伝わるか考える。 ・どのような内容であれば九十九湾のすばらしさが伝わるハンドブックになるか、考える。	
9 ～ 18	九十九湾の良さを知らせるために、九十九湾に生息する生き物のハンドブックを制作する。 ・調べたことを用いて生き物ハンドブックを制作する。	

外部連携／教材等

・のと海洋ふれあいセンター

【資料】能登里海教育研究所『海の観察ガイド』

5 活動の様子



九十九湾での磯観察



採取した海藻や生き物



特徴や気づいたことを
ワークシートへ記入

6 成果・課題

○児童たちにとって身近な海であるが、実際に海の生き物を自分たちの手で触り、自分たちの目で確かめることで、生き物の様子や生態について知ることができた

○九十九湾のすばらしさを体感することができ、九十九湾のよさを広めるために、生き物ハンドブックを作るという次の活動への十分な意欲づけとなった。

▲野外での活動となるので、天候によって左右されやすい。施設との連絡をしっかりと取る必要がある。また体調面や、活動中の諸注意など、安全に活動できるように事前に話し合う時間を設けるなど、子どもたちの意識を高めることが大切である。

7 子どもたちの反応やミニ感想

- ・いろんなしゅるいのいろんな生き物がいて、もっともっといっぱいさがしてみたいです。
- ・ウニのかいがらははじめてみました。すこし大きいんだなと思いました。さわったらぎざぎざしたところがあったです。またかんさつしてさわってみたいと思いました。

3年生 海洋ふれあいセンター 磯観察

◎めあて 自分たちの町の海とふれあい、どんな生き物がいるのか見つけてかんさつしよう。

★かんさつのポイント

- ・色（緑色、赤っぽいなど） ・形（〇〇のような形、〇〇にしているなど）
- ・大きさ（〇cmくらい、〇〇と同じくらい大きさ） ・重さ（〇〇と同じくらい重さ）
- ・さわった感じ（ざらざらしている、つるつるしている） ・場所（浅いところ・岩場など）
- ・気づいたところ（とげがある、小さなつぶつぶがついているなど） ・名前（ ）

○メモ（ふれあいセンターの方に教えてもらったこと、聞きたい事など）

クワンタナンのウニ
色はぐろです
大きさはしじょうと同じくらい
またかんさつしてつるつるしている
ツルは糸田い丸です
気づいたこと、しじょうが後ろに殻
がついている
アメフラシ
色はぐろと茶色で大きさは8cmです

★感想（わかったこと・感じた事など）

クワンタナンのウニは初めて見ました。色がぐろで大きさはしじょうと同じくらいです。また、つるつるしてつるつるしている感じがとても気持ちいでした。また、アメフラシは糸田い丸で、色はぐろと茶色で大きさは8cmです。気づいたこと、しじょうが後ろに殻がついている。また、アメフラシは糸田い丸で、色はぐろと茶色で大きさは8cmです。

3年生 海洋ふれあいセンター 磯観察

◎めあて 自分たちの町の海とふれあい、どんな生き物がいるのか見つけてかんさつしよう。

★かんさつのポイント

- ・色（緑色、赤っぽいなど） ・形（〇〇のような形、〇〇にしているなど）
- ・大きさ（〇cmくらい、〇〇と同じくらい大きさ） ・重さ（〇〇と同じくらい重さ）
- ・さわった感じ（ざらざらしている、つるつるしている） ・場所（浅いところ・岩場など）
- ・気づいたところ（とげがある、小さなつぶつぶがついているなど） ・名前（ ）

○メモ（ふれあいセンターの方に教えてもらったこと、聞きたい事など）

ウニ
・茶と灰色
・丸い形
・かたい殻が、丸い
・さわるとざらざらした感じ
・2.5cm×5cm長さ
・あながある
・丸い殻が、丸い
・岩はのり、丸い感じ

★感想（わかったこと・感じた事など）

ウニのかいがらははじめて見ました。色が茶と灰色で丸い形です。また、かたい殻が丸い感じがとても気持ちいでした。また、さわるとざらざらした感じがとても気持ちいでした。また、2.5cm×5cm長さで、あながあります。また、丸い殻が丸い感じがとても気持ちいでした。

3年 単元名「わたしたちの海を守ろう ～海を守るお掃除大作戦～」(18時間)

～海に親しむ・海を知る・海を守る～

1 単元設定の理由

身近な海の環境を調べ、美化する方法を考え実行することでふるさとを大切にしていこうという気持ちを育む。

2 単元目標

身近にある海が、かけがえのないものであることに気づくとともに、海の環境を知り、守るために自分たちができることを考え、実践することができる。

3 単元の評価規準

	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
評価規準	①海岸の環境に興味を持ち、主体的に漂流物を拾ったり、調べたり、海の美化活動のために、課題を見いだしている。 ②課題について必要な情報を適切に収集し、計画的に調べている。 ③調べたことや考えたことを、相手意識を持って、分かりやすく表現している。	④海の環境を美化するために活動している。	⑤課題解決するために、関係する専門機関の方や友だちと、共同して活動している。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	小木の海の環境について話し合う。 ・九十九湾の環境について、磯観察での経験をもとに話し合う。	
2 5 6	海の環境を調べる方法について考え、調べる。 ・九十九湾の環境を調べる方法について考える。 ・赤崎海岸でごみの収集を行う。 ・集めたごみを種類ごとに分別する。	・ごみの分別作業では危険が伴うので、海上保安署の方に協力をお願いする。
7 8 9	海をきれいにする方法考える。 ・ごみの分別活動を通してわかったことをまとめる。 ・海をきれいにする方法を考える。 ・どんな新聞とポスターにするのか考える。	
10 18	九十九湾の美化を呼び掛けるために、新聞とポスターを制作する。 ・調べたことを用いて新聞とポスターを制作する。 ・制作した新聞を家庭や地域の人に配る。	

外部連携／教材等

・能登海上保安署

5 活動の様子



赤崎海岸でのごみの収集



収集したごみや漂流物



種類ごとの分別する

6 成果・課題

○ごみの種類は空き缶やペットボトルなどポイ捨てされたものが多いと予想していたが、実際に海岸へ行って収集してみると、流木などの漂流物が多いことに児童は驚いていた。ごみの量がとても多く、海の汚れを実感したことで、きれいにしようという児童の意欲を高めることができた。

○漂流物の調査には、昨年に引き続き海上保安署の方々にも協力をお願いした。ガスの容器などの危険物もあったため、海上保安署の方々も事前に指導をしてくださったことで、児童は安全に活動することができた。

▲ごみの中には危険物が含まれていることがあるので、海上保安署の方だけでなく、学校でも事前に安全に活動するための指導が必要。

▲軍手をつけて活動をしたが、衛生面を考えるとマスクの着用もした方がよかった。

▲児童の移動手段と天候に左右されるため、日程の調整が難しい。あらかじめ、複数の予定日を決めておくとうい。

7 子どもたちの反応やミニ感想

- ・海にはいっぱいごみが落ちていました。りくに近くないところにもごみがういているのかなど、思いました。
- ・予想していたごみよりも、予想していなかったごみの方がたくさんあった。落ちているごみの量が考えていたよりもずっと多くてびっくりしました。

9月11日 赤崎海岸 ごみの分別活動

☆めあて：自分たちで集めたごみと、よそうしたごみをくらべてちがいを考える

○海がんであつめたごみのしゅるい

マネキの首、ペットボトル、あきかん、ロープ、かびん、箸、ほうすたロール、食べ物、すいとう、葉、ほ、つりばり、ガラス、イタ、マスク、タイヤ、スプレー、インク、ほうし、タンク、あくさけ、たけ、木のえだ、うさわ、ガスボンベ、海そう、たばこのから、おかし、のり、くろ

○集めたごみから気がついたこと

あきかんがいっぱいあったと思、たけど、プラスチックがいっぱいありました。

○よそうとくらべてみて気がついたこと

葉っぱがいっぱいあると思、たけど、行、てみた、葉、っぱがあまりなかった、木のえだもあまりないと思、たけど、木のえだがおちていました。

○振り返り・感想

ゴミをひらいていたらマネキがおちてびっくりしました。ゴミをひらいていたらいろいろなおもしろいものがおちてました。

9月11日 赤崎海岸 ごみの分別活動

☆めあて：自分たちで集めたごみと、よそうしたごみをくらべてちがいを考える

○海がんであつめたごみのしゅるい

かみ、の、お茶、の、ペット、ボトル、お、びん、スチ、ロ、ン、ヤ、ウ、イ、ア、カ、の、だ、い、り、の、ク、リ、ア、ン、あ、ま、り、な、い、の、り、の、カ、ラ、ス、酒、と、洗、い、の、り、の、う、さ、が、す、く、つ、(ス、リ、ッ、パ)、ペ、ット、ボ、ト、ル、の、ふ、た、ガ、ラ、ス、マ、ヨ、ウ

○集めたごみから気がついたこと

意外に、かみ、の、く、の、ご、み、が、あ、っ、た。

○よそうとくらべてみて気がついたこと

タバコが、多、い、と、思、た、け、れ、ど、少、な、か、っ、た。魚の死体、1匹も、な、か、っ、た。ほうすたロールは、や、め、多、か、っ、た。ビ、ニ、ール、が、多、い。

○振り返り・感想

ゴミは、思、っ、た、り、上、に、多、く、お、ち、た、と、よ、う、し、た、ご、み、よ、り、よ、う、し、て、な、い、ご、み、の、ほ、う、が、い、っ、ぱ、い、に、あ、っ、た。

4年 単元名「能登町の海を調べよう ～イカの町・小木～」(10時間)

～海に親しむ・海を知る～

1 単元設定の理由

- ・イカについて気になる事・知りたい事を調べ、イカに関する知識を高める。
- ・イカが能登町の有名な海産物であることを知り、ふるさとの海への誇りの気持ちと愛着を育む。

2 単元目標

小木で有名なイカについて調べ、ふるさとの海の素晴らしさに気がつき、魅力を伝えることができる。

3 単元の評価規準

	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
評価規準	① イカに興味を持ち、調べ学習やインタビューをし、更に疑問を持つ等探求的に調べている。 ② 課題解決に向けて必要な情報を収集し、計画的に調べている。 ③ 調べたことや考えたことを、相手意識を持ち、分かりやすく表現している。	④ イカについて調べ、ふるさとの海への誇りの気持ちと愛着をもっている。	⑤ 課題解決するために、関係する専門機関の先生方や友達と、協同して活動している。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	学習の見通しを持ち、課題意識を持つ。 ・小木は全国でも有数のイカの漁獲高を誇る港町であることを知る。 ・イカについて調べたいことを出し合う。	・能登町の現状について捉えるために、地図やグラフ等を提示する。 ・調べたい内容でグルーピングする。
2 3 4	イカについて調べ学習をする。 ・インターネットや図鑑で調べる。 ・調べたことを発表し、もっと知りたいことや新たな疑問点について話し合う。	・グループに分かれ、インターネットや図鑑で調べる。 ・図鑑は学校図書だけでなく、金沢大学臨海実験室からも借りておく。
5 6	もっと知りたいことや新たな疑問点について調べる。 ・漁業組合の方から小型イカ釣り漁についての話を聞く。 ・小型イカ釣り船の見学をする。 ・漁業組合の方にインタビューをする。	・安全指導を十分に行う。
7 8 9 10	イカについて調べたことをイカ新聞にまとめる。 ・伝えたい相手を意識して下書き・推敲・清書をする。 ・新聞を用いて発表する。	・国語科「新聞を作ろう」と関連付け、新聞の作り方については国語科の時間に学習しておく。

外部連携／教材等

・金沢大学臨海実験室 ・漁協組合

5 活動の様子



漁協組合の坂東さんに話を聞く



中型イカ釣り漁との違い



主な漁場の説明



小型イカ釣り漁船の見学



イカ釣りロボット



船底の保冷室

6 成果・課題

- どうして自分たちの住む町が「イカの町」と呼ばれているのかを知り、よりふるさとに愛着をもった児童が多かった。
- 国語科の授業と横断的に取り扱ったことで、児童の学習意欲が高まった。
- ▲ インターネットでの調べ学習については、子供にとって難しい文章のページしか見つけられなかった児童がいたので、最初から教師側がホームページをいくつか指定しておけばよかった。

7 子どもの反応やミニ感想

- ・ イカについての調べ学習をしました。〇〇さんが、調べたことを「Q&A コーナー」にすると書いていました。私はどんな見出しを書こうか迷っています。イカ新聞を作るのが楽しみです。早く新聞を作りたいです。
- ・ 初めて小型船に乗りました。イカ釣りロボットや、船の仕組みに感動しました。
- ・ インターネットと本で調べても分からなかった「イカの住み家」のことが、(漁業組合の)坂東さんに教えてもらって分かったので、よかったです。

4年 単元名 小木発信プロジェクト ～イカす小木 イカすCMで PR!～ (25 時間)

～海に親しむ・海を知る・海を利用する～

1 単元設定の理由

- ・「小木の町はイカの町」であることに誇りを持ち、能登町の人々に発信しようとする気持ちを育む。
- ・能登町の人々に「小木の町はイカの町」だと知ってもらうために活動する。

2 単元目標

イカについて興味を持って調べ、私たちの町を「イカの町」として能登町の人々に発信するために活動することができる。

3 単元の評価規準

	学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
評価規準	①イカに興味を持ち、調べ学習やインタビューをしたり、私たちの町を「イカの町」として、能登町の人々に発信するために、課題を見いだしたりしている。 ②課題解決に向けて必要な情報を収集し、計画的に調べている。 ③調べたことや考えたことを、相手意識を持って、分かりやすく表現している。	④イカについて調べ、私たちの町を「イカの町」として発信するために活動している。	⑤課題解決するために、関係する専門機関の先生方や友達と、協同して活動している。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	学習の見通しを持ち、課題意識を持つ。 ・能登町の4年生の実態アンケートをもとに、小木の町について話し合う。 ・「イカのおいしさや新鮮さについてPRするイカすSONGを作り、CMに流す」というゴールを設定する。	・小木の町の現状について捉えるために、アンケート結果を提示し、課題意識を持たせる。 ・ふるさとCMを見てイメージをもつ。
2 ～ 8	イカのおいしさや新鮮さのひみつについて調べ学習をする。 ・インターネットや本で調べる。 ・調べたことを発表し、もっと知りたいことについて話し合う。 ・イカのおいしさや新鮮さの秘密を見つけるために、小木漁協に行く。	・3つのグループに分かれ、インターネットや図鑑で調べる。 ・漁協へ行き、見学したりインタビューしたりする。

9 5 24	<p>調べたことを CM にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・CM の中心となる内容を考え、調べた内容を歌詞にまとめる。 ・キャッチコピーを考える。 ・合奏班、ダンス班、衣装小道具班に分かれ撮影準備をする。 ・イカを調理し、撮影したり味わったりする。 ・試しの CM を撮影する。 ・試写会をし、改善点について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漁協で CM 撮影をする。 ・先生方に見ていただく。
25	学習活動をふり返る。	

外部連携／教材等

・小木漁協 坂東博一さん

【資料】能登里海教育研究所『海の観察ガイド』、和平商店、MRO ふるさと CM

5 活動の様子



漁協見学で一尾凍結を知る



調べた事を整理



漁協での CM 撮影



イカの調理



船を背景に撮影

6 成果・課題

○身近な教材を設定したことで、調べようとする意欲が高まり、以前よりも小木の町について詳しくなり、小木の町への誇りを持つようになった。

▲天候（雨や雪、気温が低い等）によって CM 撮影が予定通りに行えないことがあった。

7 子どもの反応やミニ感想

- ・調べた事をイカす SONG の歌詞にまとめることができました。早くイカす CM を作りたいです。
- ・調理が楽しかったです。イカめしと鉄砲焼きを初めて食べました。どれもおいしかったです。

5年 単元名「魚のたんじょう」（11時間）

～海を知る～

1 単元設定の理由

- ・受精の瞬間と成長の様子について、ウニを用いて観察することで、実感を伴った理解ができるようにする。
- ・ウニの発生について調べたり観察したりすることを通して、生命のつながりや大切さを感じ取る。

2 単元目標

海の生き物の誕生について調べ、動物の発生や成長について理解することができる。

3 単元の評価規準

里海科についての 関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
動物の発生や成長を意欲的に追究し、生命を尊重したり自然の力の大きさを感じたりするとともに、見いだしたきまりを生活に当てはめてみようとしている。	動物の発生や成長に問題を見だし、計画的に追究し、量的変化や時間的変化について考察し、表現している。	動物を育てたり、問題解決に適した方法を工夫したりして観察を行い、その過程を記録している。	動物の発生や成長について、生命の連続性を実感を伴って理解している。

4 単元の指導計画

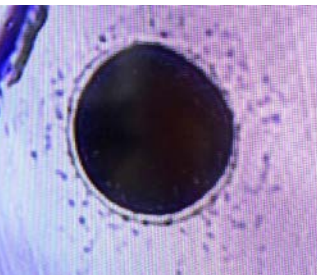
時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	メダカの雌雄を飼育する準備をする。 ・魚の誕生に興味を持ち、メダカが産卵するには、雄と雌を一緒に飼う必要があることを考える。	・水槽は教室に置き、常に観察できるようにしておく。
2	メダカの卵の変化を予想する。 ・生まれたメダカの卵を観察し、卵はどのように変化するか予想する。	
3 4	メダカの卵の変化を観察する。 ・子メダカが生まれるまでの卵の中の様子を、解剖顕微鏡などを正しく操作して観察し、記録する。	・解剖顕微鏡の操作のしかたを確認する。
5	メダカの卵の中の変化を観察する。 ・数日ごとのメダカの卵の中の変化や、かえった子メダカを観察する。	
6	魚の卵の中の成長変化をまとめる。 ・卵の成長の変化をまとめる。	
7	メダカの食べ物について考える。 ・水の中には魚の食べ物があるかを話し合い、水	・顕微鏡の操作のしかたを指導・確認する。 ・中庭の池の水やバケツ栽培の稲の水を使用

8	槽や池の水を顕微鏡で調べメダカの食べ物と水の中の小さな生き物についてまとめる。	する。
9	ウニの受精の様子を観察する。 ・ウニの成体や放卵，放精，受精の様子を顕微鏡で観察する。 ・講師を招いてTTで指導する。	・顕微鏡は一人1台操作する。 ・受精後の変化が確認できるように，大型スクリーンでも変化の様子を示す。 ・受精後の変化がとらえられるように，2時間前，2日前に受精したウニの幼生を見せる。
10	メダカの食べ物と水の中の小さな生き物についてまとめる。 ・これまでの観察をもとに，水の中の小さな生き物は，魚などの食べ物になっていることをまとめる。	
11	魚の卵の中の成長と水の中（海中も混ぜて）の小さな生き物についてまとめる。	・ふれあい学級で行った海のプランクトン観察会の学習も織り交ぜながらまとめる。
外部連携／教材等 能登里海教育研究所 浦田 慎先生（GT）		

5 活動の様子



【ウニの受精の観察】



【受精の瞬間】



【ウニの幼生】

6 成果・課題

- 教科書では受精の瞬間を見ることは難しいが，ウニの受精の様子を観察することで，卵子と精子が受精する瞬間や受精後の変化を実際に児童が見ることができ，理解が深まった。
- 受精して2時間後や2日後の様子を見ることで，卵が変化していくようすを理解することができた。
- 一人1台の顕微鏡を使い，実習することができた。先に淡水のプランクトン観察をすることにより顕微鏡の使い方も指導してあったので，顕微鏡はスムーズに扱うことができた。
- ・今年も里海研究所の浦田先生に準備からレクチャーまでしていただいた。担任はふり返りとまとめの部分の指導に入った。あとは顕微鏡の使い方の補助等に回った。
- ふれあい学級で海中のプランクトン観察も行ったので，色々な種類がいることがわかり，淡水と海中の比較などもすることができた。

7 子どもの反応やミニ感想

- ・けんぴ鏡でウニの受精を見ていたら，小さな精子が寄ってきて，シュッと受精膜というのができるというのにびっくりしました。2日前の卵は，もうかさのような形になっていて，くるくるしゃわしく回っていました。想像した形とはずいぶん違ってビックリしました。

5年 単元名「海をきれいにする生き物について調べよう」（4時間+α）

～海を守る～

1 単元設定の理由

- ・海的环境を守っている生き物の生態について調べることで、海をきれいにする生き物の性質や特徴を理解し、きれいな海を守ろうとする態度を養う。
- ・「食べる・食べられる」食物連鎖のしくみを理解し、海のバランスが保たれていることを理解する。

2 単元目標

海的环境の変化とそれに対応する生き物の様子を観察したり調べたりしながら、海をきれいにする生き物について理解し、海的环境保全しようとする資質を養う。

3 単元の評価基準

里海科への 関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
海をきれいにする生き物について興味を持ち、進んで調べたり観察しようとしている。	海をきれいにする生き物について調べたことや考えたことを表現している	資料を活用して海をきれいにする生き物について調べたり、貝類の浄化能力を観察し、その過程を記録したりしている	海をきれいにする生き物の性質や特徴について理解している

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
0	親子観察会（7月） ・プランクトンネットで身近な海のプランクトンを採集し、海には多様なプランクトンが多数いることを観察する。 ・観察したプランクトンとメダカのえさになるプランクトン（ミジンコなど）とを比べながら、多様なプランクトンがいることを理解する。	・親子 PTA 活動として金大臨海実験所・里海研究所とタイアップして行う。
1	海をきれいにする生き物について調べる。 ・赤潮や重油などによる汚染写真を提示しながら、汚染された海をきれいにする生き物がいることに気づかせ、その生き物について調べる。	・インターネットや図書室の図鑑などを活用して調べる。
2	海をきれいにする生き物について情報を交換し合う。 ・調べたことを発表しながら、どのような生き物がいたかをまとめ、実験の計画を立てる。 ・プランクトンが大量発生した（赤潮）状態を想定して、そのプランクトンを食べて、海のバランスを保つ生き物について実験する計画を立てる。（2枚貝・サザエ・ホヤ・ナマコなどを比較する。）	・里海研究所と連絡を取り合い、児童の興味・関心に沿った方向で実験を計画する。
3	実験をして、貝類の浄化能力を観察する。 ・対比実験として、理科で学習した視点を確認しながら、何も入れない水槽・2枚貝（ムラサキガイ・カキ）・白ホヤ・サザエを入れた水槽の変化の様子を観察する。	・里海研究所の浦田先生を GT として、対比実験をする。
4	調べたことをまとめ、海的环境について意見交換をする。 ・実験の結果をレポートをまとめ、意見交流する。	

※総合の時間とタイアップ

海の環境を守る生き物として、ホヤのなかまと二枚貝の体の仕組みを詳しく調べて交流する。



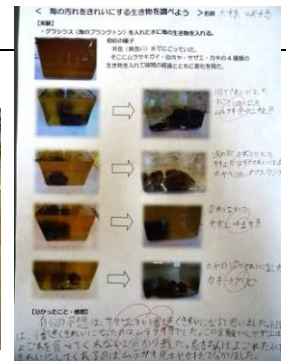
調べたことを劇に表現して、九十九っ子発表会で発表する。



外部連携／教材等

・里海研究所 浦田 慎さん

5 活動の様子



二枚貝・ホヤの観察

実験レポート

6 成果・課題

- 子どもたちは、二枚貝の浄化作用についての理解を深めることができた。
- 対比実験の中で自分の考え(予想)を持ち、それに調べる方法なども考えながら里海研究所の浦田先生にご協力をいただいて実験を行った。実験はわかりやすく、子どもたちの結果と考察をしっかりとまとめることができた。

7 子どもの反応やミニ感想

- ・自分の予想はサザエが一番早くきれいになると思いました。一番動いていたからです。でも実験の結果はあまりきれいになりませんでした。じっと動かないムラサキガイの方がはるかに早くきれいになりました。ホヤもきれいになりました。プランクトンをいっぱい食べてきれいにする生き物があることがよくわかりました。

6年 単元名「生き物の暮らしと環境」（6時間）

～海に親しむ・海を知る・海を守る～

1 単元設定の理由

- ・海の世界連鎖について、実感を伴った理解ができるようにする。
- ・人や動物、植物は互いにかかわりあって生きていることを理解し、生命を尊重したり、自然の力の大きさを感ぜたりすることができる。

2 単元目標

生物と環境について意欲的に追究することを通して、その相互関係について考察し、生命を尊重したり、自然の力の大きさを感ぜたりすることができる。

3 単元の評価規準

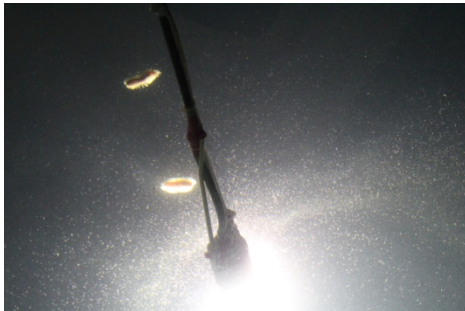
里海科についての 関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
生物と環境を意欲的に追究し、生命を尊重したり、自然の力の大きさを感ぜたりするとともに、見いだしたきまりを生活に当てはめてみようとしている。	生物と環境について問題を見だし、推論しながら追究し、相互関係について考察して表現して問題を解決している。	生物と環境のかかわりについて、問題解決に適した方法を工夫し、装置を組み立て観察、実験を行い、その過程や結果を的確に記録している。	生物と環境のかかわりについて、そのかかわりを実感を伴って理解している。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	生き物と空気、食べ物、水とのかかわりについて考える。 ・人やほかの動物は、どのような物を食べているか、普段の暮らしやこれまでの経験をもとに話し合う。	
2	人やほかの動物の食べ物のもとを調べる。 ・人の食べ物の材料のもとをたどる。 ・ほかの動物の食べ物を調べて、そのもとをたどる。 ・生き物の食べ物を通じたかかわり（食べる・食べられる）についてまとめる。	
3	生き物の食べ物を通じたかかわりの様子を観察する。 ・夜の海辺で、集魚灯に集まるプランクトンや小魚を通して、海の中の食物連鎖について考える。 ・顕微鏡でプランクトンを観察し、動物プランクトンと植物プランクトンのかかわりについて知る。	・救命胴衣着用 ・親子で夜の観察会を実施
4	生き物と空気のかかわりについて調べる。 ・植物が二酸化炭素を取り入れて、酸素を出しているかを調べ、まとめる。	

5	自然の中で、食べ物や空気がどのように循環しているかを考える。 ・人やほかの動物、植物にとって、水はどのようなものか話し合う。	
6	学習したことをまとめる。 ・生き物と空気、食べ物、水とのかかわりについてまとめる。 ・水が生き物や環境とどのようにかかわっているかを考え、今の自分たちにできることを考える。	
外部連携／教材等 ・能登里海教育研究所 浦田 慎先生		

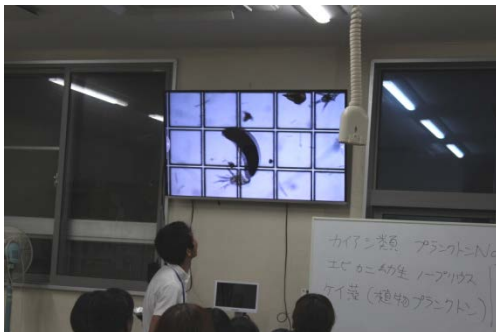
5 活動の様子



集魚灯にあつまるプランクトンと海毛虫



プランクトンを食べにくる魚を観察



プランクトンの観察



親子でプランクトンの観察

6 成果・課題

- 5月にも親子ふれあい学級で昼間に乗船し、採集したプランクトンを観察した。今回は、夜ではあるが2回目ということもあり、顕微鏡の操作にも慣れ、5月に見たプランクトンと比較しながら観察することができた。授業で学習した食物連鎖を実際に見たことで、知識と体験の一致をはかることができた。
- 浦田先生にお話から、もっとも数が多いのは植物プランクトンであるとお話しをいただいたことで、陸上でも海でも動物の食べ物のもとには植物からつながっていることを理解することができた。
- ▲今回は、夜の観察ということで全員の保護者の方に参加していただき、児童の安全を確保することができた。保護者が参加できない児童がいた場合どうするかを考えておく必要がある。

7 子どもの反応やミニ感想

- ・顕微鏡で観察したときに、カイアシ類がとて多いと分かりました。そして、とても大きなプランクトンが小さなプランクトンを食べていました。海でも、「食べる」「食べられる」という関係があると分かりました。

6年 単元名「漁師の仕事を知ろう ～能登町の漁師として生きる～」(6時間)

～海に親しむ・海を知る～

1 単元設定の理由

- ・漁師の漁にかける思い、能登町を思う気持ちに触れ、ふるさとのよさに気付き、ふるさとに誇りと愛着を育む。
- ・漁師という職業を選択するに至った思いに触れ、将来を考えていくきっかけとする。

2 単元目標

海にかかわる仕事の体験や施設の見学を通して、海の自然や文化に親しんだり、海にかかわる多様な仕事に触れたりして、進んで海にかかわることができる。

3 単元の評価基準

里海科への 関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
漁師の仕事について調べたり、話を聞いたりすることを通して、能登町の漁師の思いや生き方を知り、能登町の一員としてふるさとのよさに気付いている。	漁師の仕事について調べたり、話を聞いたりすることを通して、能登町の漁師の思いや生き方を知り、自分たちにできることを考えている。	漁師の仕事について資料を活用して調べたり、話を聞いたりして、レポートにまとめている。	海にかかわる仕事について考えることを通して、漁師の思いや生き方が能登町の漁業の発展につながることを理解している。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	漁師のことを知るための、学習の課題を設定する。 ・能登町の漁師が仕事をしている様子を視聴する。 ・能登町の漁師が高齢化し、若い漁師が減っているわけを考える。 ・どのような思いで漁師の仕事をしているかを予想する。 ・学習課題「漁師の仕事を知ろう ～能登町の漁師として生きる～」を設定する。	・DVD「僕の選んだ道」を導入で提示する。
2	学習の計画を立て、漁師の仕事について調べる。 ・グループごとに漁師の仕事についてインターネット等を活用し、調べ活動を行う。 ・分かったこと、疑問点、もっと知りたいことなどを話し合う。	
3	漁師の仕事について知る。 ・能登町の漁業について(漁法や獲れる魚種などについて)知る。	

4	漁師の仕事場や施設を見学する。 ・ 定置網はどんなところでどのように行われているのか、仕事場（日の出大敷）の見学をする。	・ 見学時の服装（長袖、長ズボン、長靴）を確認する。 ・ 定置網の補修作業や選別機、漁船なども見学させていただく。
5	漁師の仕事に対する思いを知る。 ・ 漁師の仕事に対する思い、能登町の海に対する思い、漁師として生きる道を選択した理由などを聞く。 ・ 漁師の方に手紙を書く。	・ GT（中田洋介さん）
6	漁師の仕事についてレポートにまとめ、交流する。 ・ 漁師の仕事について写真や絵、図などを用いてレポートにまとめる。 ・ もっと知りたいことについて話し合う。	
外部連携／教材等 ・ 石川県立能登高校「おおとり丸」 ・ 日の出大敷 中田洋介さん（GT）		

5 活動の様子



仕事場の見学



GTのお話



学習したことを発信

6 成果・課題

○児童は、実際に仕事場を見学したり、漁師さんと話の話を聞いたことで、漁師の仕事の魅力に触れることができた。また、自分たちの住んでいる能登町への愛着を持つことができた。

○総合的な学習の時間に、この単元の学習と並行して、小木のイカ釣り漁の現状についても学習した。それぞれの仕事の大変さと魅力を比べながら、感じとることができた。

▲GTとは事前に3回程度打ち合わせを行った。打ち合わせシートや指導案を用いて、綿密な打ち合わせが必要である。

7 子どもの反応やミニ感想

・漁師の仕事は、朝早いなど大変なこともあるけれど、とても魅力的だなあと感じました。中田さんは、お父さんの働く姿にあこがれて漁師になったそうなので、自分も好きなことを見つけて、大人になったら仕事ができたらいいです。

・漁師さんの話を聞いて、能登町や海、魚が大好きだと知りました。自分も能登町に生まれて育っているので、もっと能登町のことを知ってみたいです。

平成29年度 能登町教育委員会指定・海洋教育推進事業

里海科研究発表会・能登の海洋教育シンポジウム

研究主題

海に親しみ ふるさとにほこりと愛着を持つ児童の育成
～海に関する体験活動を通して～



目指す児童像

- ・ 海の自然に親しみ，海に進んで関わろうとする児童
- ・ 海の自然や資源，人との関わりについて進んで調べようとする児童
- ・ 海の環境保全に主体的に関わろうとする児童

平成29年10月 6日(金)

能登町立小木小学校

< 仮説 >

- (1) 海に関する体験活動を取り入れることで、郷土に対して誇りと愛着を持つ心が養えるだろう。
- (2) 地域を巻き込んだ体験活動をすることで、地域活性の一翼を担うだけでなく児童の肯定感が高まるだろう。

研究の流れ

平成 26 年度	平成 27 年度 里海科スタート	平成 28 年度	平成 29 年度
カリキュラムの見直し	カリキュラム開発	教師の専門性の開発	スタンダードの開発と海洋教育の継続
教科、教科外、学年で取り組んできた教育活動を「海洋教育」の視点から総合的に検討する。	既存の海洋に関する教育活動を基盤にして、「海洋教育」として意識的に教育活動を組織し実践し、「海洋教育」の視点から省察する。	「海洋教育」カリキュラムの持続的な開発のため、新しい素材の発掘・カリキュラム開発の主体である教師の専門性を開発する。	系統性を考えたよりよい地域教材の開発をしながら、他の教科同様、教材の精選・実践を積み上げ、小木スタンダードの編成と海洋教育の継続を進める。

何を学んでいるの？(4つの領域)

海に親しむ

海を体験しよう
漁師の仕事体験しよう
海に関わる仕事を見学しよう
海に関わる活動を体験しよう



全校 里海遠足



1年 海そう採集

2年 磯観察

海を知る

海の魚について調べよう
海の植物について調べよう
海の生き物の誕生を調べよう
海の生き物の関連について調べよう
海を通じた文化交流の歴史を調べよう
海流や潮の満ち干、海底の地形について調べよう



5・6年 着衣泳



6年 親子夜の自然観察会



海を守る

日本の水産業と海を守る調べよう
地球温暖化と海の変化について調べよう
海の環境の変化と生き物の暮らしについて調べよう
人々の暮らしが海洋に及ぼす影響について調べよう



3年 海岸のごみ調べ



5年 貝の浄化能力観察

海を利用する

日本の水産業について調べよう
日本や世界の海運について調べよう
世界の結びつきと海運の動きについて調べよう
日本の海洋でのエネルギー開発について調べよう



6年 イカを使った献立



5年 魚のとおり方調べ

里海連携マップ



どんなことしているの？

海での体験



3年 遊覧船乗船・いけす観察



1年 磯の生き物観察



6年 おとり丸乗船



5年 大型カヌー

イベントに参加



5年 イカの解剖



6年 イカの学習



4年 キーホルダー配布



6年 白山丸乗船

ゲストティーチャーの活用



5年 ウニの受精



5年 能登町の漁業



3年 海岸のごみ調べ



6年 漁師の仕事

調べてまとめて発信



4年 イカす会



九十九っ子発表会



高学年集会 イカ学習会



4年 イカCM

能登里海教育研究所との連携



海の観察ガイド



ガイドブックの活用

親子で海を考える



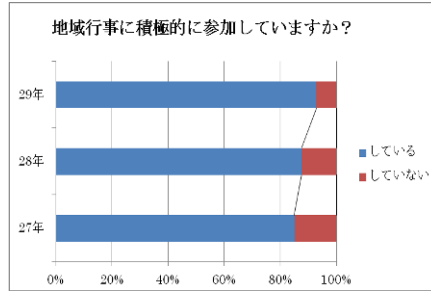
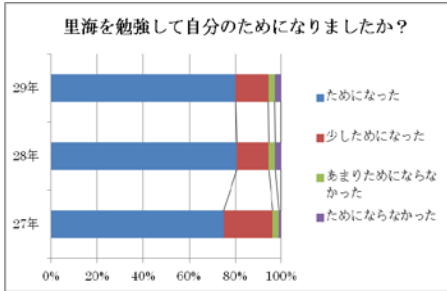
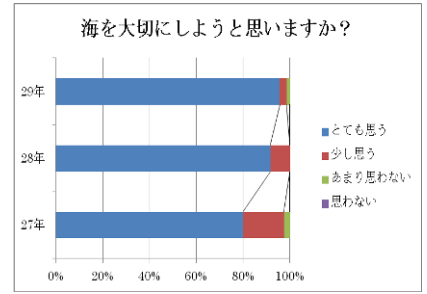
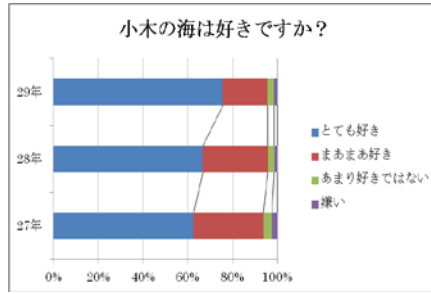
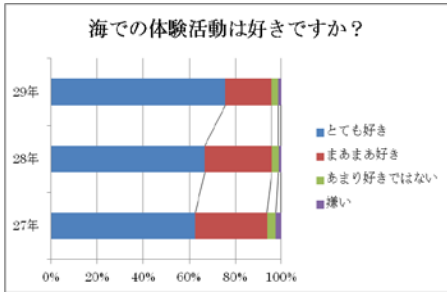
5年 海のプランクトン



2年 海の生き物

検証

児童アンケート（3ヶ年の比較 H29.7月・H28.7月・H27.11月の比較）



小木の海を大切にしようと思う
子どもが増えてうれしいな

地域への愛着も
増してきたかな。



保護者の声

年を追うごとに授業の内容が濃くなり、ここ最近は大人でも楽しめるほど面白いです。地域のことに関心を持つだけでなく、何事にも積極的にになり、好奇心や探求心が増しているように思います。

学んだことを自分たちが伝える側になることで、より小木の町やイカ漁に愛着や誇りを持つことができていると思います。子どもたちが学んでくるおかげで、私たち親世代も改めて小木を知ることができてうれしく思います。

今の子ども達は海で遊ぶことを知らない。でも里海科で海の生物などの生態を学び、「楽しい」と話しています。

教科書だけではなく、いろんな体験もできるので、子どもたちの世界も広がり、興味もわくことで知りたいことも増えると思うし、とてもよかったですと思います。



【成果】

- 体験活動を通して児童の興味関心が高まり、もっと知りたい・調べたいという意欲につながってきた。
- 自ら調べて学んだことと体験したことを関連付けることで知識と体験の一体化を図ることができた。
- 里海学習を通して学んだ探求の姿勢が、少しずつ学力向上にも波及してきた。
- 能登里海教育研究所とのパイプが強化され、さらなる地域教材の開発を進めることができた。

【課題】

- 生活科⇒総合的な学習の時間⇒里海科への系統的な年間計画の改善と他教科との関連の追求
- ESDの視点や環境教育などとの関連も視野に入れて、「つけたい力」を明確にした単元構成の工夫
- 保護者や地域への発信の工夫
- 教員誰でもその活動ができるような体制の構築